

韓国 漢陽大学校と大学間交流協定を締結 クラーク博士の曾孫 Jane Ashley Lundy氏が本学を訪問

お知らせ

・被扶養者の要件の確認





クラーク博士の曾孫が本学訪問



平成24年度北海道大学公開講座

1 北海道大学における職員・人事制度

全学ニュース

- 2 韓国 漢陽大学校と大学間交流協定を締結
- 2 申珪秀 駐日大韓民国特命全権大使と学生との懇談会を実施
- 3 クラーク博士の曾孫 Jane Ashley Lundy氏が本学を訪問
- 3 北海道大学 緑のピアガーデン2012を開催
- 4 北大フロンティア基金
- 6 平成24年度 公益財団法人北海道大学クラーク記念財団助成事業の決定
- 9 平成24年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行政
- 10 平成24年度北海道大学公開講座「私たちの未来とリスク」を開催
- 10 北海道大学入試説明会を実施
- 11 平成24年度 知的財産に関するセミナーを2件開催
- 12 平成24年度北海道大学情報セキュリティセミナーを開催
- 12 「出入国管理制度説明会」を開催
- 13 留学生と地域との交流「ホリデー in ひだか」を開催
- 14 山中伸一文部科学審議官が来学
- 14 放射線障害防止のための教育訓練の実施
- 15 構内で発生した伐採木・剪定枝を配布
- 15 「省エネルギー講習会-2012夏-」を開催
- 16 環境広場さっぽろ2012に出席

部局ニュース

- 17 グローバルCOEプログラム「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」主催 国際サマースクール2012を開催
- 18 電子科学研究所創立20周年 附属グリーンナノテクノロジー研究センター発足記念式典を開催
- 18 スラブ研究センターが新学術領域研究の国際シンポジウムを開催
- 19 情報法政策学研究センターで日中韓シンポジウム「動く社会、動く知的財産法～東アジアの視点からの提案」を開催
- 20 会計専門職大学院で(社)日本内部監査協会との共同セミナーを開催
- 21 薬学研究院で第19回ファーマサイエンスフォーラム「バイオ医薬の現状と未来」を開催
- 22 農学研究院で平成24年度第1回FD研修会を開催
- 22 獣医学研究科で「安全講習会」を開催
- 23 北海道大学納骨堂慰霊式を挙行政
- 23 「平成24年度薬用植物園見学会」を開催
- 24 ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～
◆ゼリーを軟骨に作り変えよう！～水で出来た未来材料「ゲル」～
◆北大農場で「体験！ベリー研究の最前線 “君も育種家になろう！”」
◆こんぶの森を育てよう！～ゆたかな海をこの手で～
- 27 北大農場公開デー「ウイナーをつくってみよう」を開催

- 28 総合博物館でカルチャーナイト2012「チェンパロと星空の夕べ」を開催
- 28 北海道大学病院で「第47回ふれあいコンサート 七夏の夕べ」を実施
- 29 メディア・コミュニケーション研究院公開講座「広東語で知る香港文化」が終了
- 29 メディア・コミュニケーション研究院が、ソウル大学日本研究所の教授引率現地研修に協力
- 30 大学間交流協定校 韓国釜慶大学校の練習船「カヤ号」が函館寄港、水産科学研究院で日韓教育交流事業を実施
- 30 水産学部が函館港まつり「ワッショイはこだて」に参加
- 31 「函館ベリーポート競漕」に水産学部から5チームが参加
- 32 附属図書館・大学文書館共催展示「“エルムの森”の青春—北大生の群像 1876～1949」を開催
- 33 附属図書館・大学文書館共催展示「“台湾は天然の恩恵裕なる”—植民地台湾を駆けた北大卒業生たち」第1期を開催
- 34 大学文書館で高松正信旧蔵資料を受贈
- 34 大学文書館で戦後の学生在学資料を受贈
- 35 大学文書館で資料見学学習会を開催

お知らせ

- 36 被扶養者の要件の確認

同窓会との交流

- 36 北海道大学新潟同窓会総会

レクリエーション

- 37 学内教職員ソフトボール大会の開催
- 38 平成24年度学内職員バドミントン大会（個人戦）の開催
- 41 教職員テニス大会の開催

研修

- 44 平成24年度北海道地区国立大学法人等会計事務研修(初級)

諸会議の開催状況 44

学内規程 45

表敬訪問 45

人事 46

- 47 新任教授紹介

訃報

- 48 名誉教授 石田 正己 氏



留学生と地域の交流「ホリデー in ひだか」



スラブ研究センター国際シンポジウム



薬用植物園見学会

水産学部
函館港まつり「ワッショイはこだて」に参加

表紙：ひらめき☆ときめきサイエンス「こんぶの森を育てよう！」(2012.7.28)

裏表紙：北の息吹④ ジムカデ (*Harimanelia stelleriana*)

北海道大学における 職員・人事制度

理事・事務局長 たかすぎ しげお 高杉 重夫

国立大学は平成16年に法人化され、国立大学法人という独立行政法人になりました。法人化前は、国立大学の職員は国家公務員としての身分でしたが、基本的には民間企業に勤務する者と同等な位置付けになりました。これに伴い労働条件等についても、労働基準法、労働安全衛生法等の労働法令の定めに従い、各法人が自主的・自律的に策定することとなりました。

以下では、本学の職員の制度について紹介します。

職員構成

現在、本学には、正規職員として教員が約2,000名、事務職員が約800名、技術職員が約200名、医療系職員が約1,000名(看護師約800名を含む)勤務しています。その他、自己収入や外部資金が増加したことに伴い、非正規職員として特任教員が約300名、契約職員が約700名、短時間勤務職員が約5,000名勤務しています。

以下では、専ら事務職員について説明します。

職員の人事

職員の新規採用については、全国の国立大学法人で統一試験を実施し、原則としてそこから採用を行っています。また、専門的な知識や技術・経験を必要とする職の採用については、選考採用も行っています。

人事については、個々人の希望や能力、適性を見極めながら適材適所の観点から行うとともに勤務評定に基づく昇任・配置を行っています。また、職員の能力向上及び組織の活性化を目的とした他機関への出向等についても積極的に進んでおり、現在も約60名の職員が他機関で活躍しています。

人材育成

人材育成については、職層に応じてその職務遂行に必要な知識を習得させるための階層別研修や日常業務を遂行するために必要とされる専門知識を向上させるための専門研修といった研修機会の提供や自己研鑽を推進するための支援を行うことで、複雑・高度化してきている業務に対応す



べく様々な取り組みを行っています。特に本学の国際関係業務に対応できる人材の育成・強化を目的として、英会話スクールを利用した語学研修や海外派遣研修を実施するなど、職員の英語力の向上について積極的に取り組んでいます。

勤務評価

職員を対象とした勤務評定については、国家公務員時代から引き続いて運用していた制度を改め、より一層「職員の能力や行動が的確に把握しうる制度」となることを目指し、平成21年11月に新たな勤務評定を導入しました。

この勤務評定は、職員がその職務を遂行する中でとった行動の評定としての「行動評定」と、職務の遂行に必要な能力及び適性についての評定としての「能力評定」から構成されています。この評定はその結果を給与や人事に反映させるだけでなく、評定時に面談を実施することで職員個々人の長所の助長や短所の是正を行うといった人材育成も主な目的とされています。

終わりに

国立大学法人化以降、国立大学は、それぞれに独自の理念・特色を確立しながら教育研究の活性化、学生支援の充実、産学連携や地域貢献の促進など様々な改革に取り組んでいます。事務職員及び技術職員においても、従来からの管理型業務に加え、企画・立案型業務が増加し、このような業務にも能力を発揮できるバイタリティのある人材が求められています。

今後も、社会情勢や本学を取り巻く環境の変化に迅速に対応できるような柔軟な人事制度の構築とそれらの変化に臨機応変に対応できる職員の育成に努めて参ります。

■全学ニュース

韓国 漢陽大学校と大学間交流協定を締結



調印式後の記念写真

7月10日（火）、韓国の漢陽大学校との学术交流に関する協定及び学生交流に関する覚書の調印を執り行いました。調印式には、漢陽大学校から林徳鎬総長ら3名、本学から佐伯 浩総長、本堂武夫理事・副学長、宮下雅年メディア・コミュニケーション研究院長、馬場直志工学研究院長ら8名が出席しました。

漢陽大学校は1939年に設立された総合大学です。人文科学、社会科学、工学、医学など全部で23の学部を有し、約3万5千人の学生と6千人余りの教職員が在籍しています。本学では、工学研究院が2011年に同大学工学大学と部局間交流協定を締結して交流を深めるとともに、メディア・コミュニケーション研究院やアイヌ・先住民研究セ



署名後の佐伯総長（右）と林総長

ンターにおいてもそれぞれ学术交流を進めてきました。

本協定の締結により、両大学の更なる教育・研究交流の推進が期待されます。

（国際本部国際連携課）

申珥秀 駐日大韓民国特命全権大使と学生との懇談会を実施

7月5日（木）、申珥秀^{シン カクソウ}大使、鄭煥^{ジョン ファンソン}星駐札幌大韓民国総領事館総領事ら4名が本学を訪問しました。申大使は、日本各地を訪問した際に、訪問先の大学で学生向けの講演や懇談会を行っており、本学でも佐伯 浩総長を表敬訪問した後、ファカルティハウス「エンレイソウ」において学生との懇談会を実施しました。

日本人学生及び韓国人・中国人留学生の約20名が参加して行われた懇談会では活発な質疑応答が行われ、例えば、学生からの「日本と韓国では文化面では交流があるが、文化面の交流以外で日本及び韓国の若者に期待すること

は？」という質問に対し、申大使は「一番大事なことは相互に尊重・信頼をすることである。日本の若者は両国の歴史的背景をしっかり勉強し、韓国の若者は戦前と戦後で日本がどのような変化を遂げたかを相互に理解してほしい。そこで初めて両者の対話が成り立つと考えている。両国の20世紀は負の歴史が多いが、是非、21世紀は未来を担う学生が正の歴史を作っていくしてほしい。」と答えていました。

最後に学生へ向けて、「日本の学生は海外に興味はあっても実際に行くことにはためらいがあるようだ。短期間でも海外で生活をし、海外の文化を知

ることが人間を成長させる一番の教育だと思うので、是非、色々な国を見てほしい。」と述べられました。短い時間でしたが、この懇談会は学生にとって、大変有意義な機会となりました。

（国際本部国際連携課）



申大使と学生との懇談会の様子

クラーク博士の曾孫 Jane Ashley Lundy氏が本学を訪問



大学文書館で資料をご覧になる Lundy 夫妻



クラーク像と共に記念撮影

7月14日（土）、札幌農学校の初代教頭W.S.クラーク博士の曾孫である Jane Ashley Lundy氏とその夫である Richard Lundy氏が本学を訪問されました。同女史は、クラーク博士の11人の子供のうち、8番目の娘であるエリザベス氏の孫にあたります。

ご夫妻は、近藤誠司北方生物圏フィールド科学センター長の案内で札幌農学校第2農場を、松枝大治総合博物館資料部研究員（前博物館長）の案内で総合博物館を見学されました。また、大学文書館においては、クラーク博士に関する資料を井上高聡大学文書館助教

から説明を受け、いずれも大変興味深そうに視察されました。夕方には、佐伯浩総長、本堂武夫理事・副学長などによる歓迎夕食会が開かれ、クラーク博士にまつわる話に花が咲きました。

（国際本部国際連携課）

北海道大学 緑のビアガーデン2012を開催

7月31日（火）～8月3日（金）の4日間、今年で7回目となる緑のビアガーデンを百年記念会館で開催し、無事終了しました。比較的天候に恵まれたこと、学内・地域の皆様に定着してきたこともあり、多くの皆様に爽やかな緑の中ビアガーデンを楽しんでいただきました。

フードメニューには、今年も静内研究牧場の協力により、牧場で育った牛肉を使用したローストビーフを用意し、来場された方々に「北大の味」を味わっていただくことができました。

7年目を迎え、毎年楽しみにしてくださるお客様が増えており、キャンパスの夏の風物詩として定着してきていることを感じた4日間でした。

（総務企画部広報課）



爽やかな緑の中でのひと時（百年記念会館周辺）



多くの方で賑わう“北大の夕べ”

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	13,499件	2,508,232,972円
基金累計額（7月31日現在）	教職員の寄附率	28.8%（1,117件／3,878人）

7月のご寄附状況

法人等9社、個人168名の方々から9,497,000円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

旭川赤十字病院、元祖ジンギスカン義経、ダクタリ動物病院、柏楊印刷株式会社、パルク動物病院、株式会社ペットランド、株式会社北海道新聞社

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	青木 直子	上田 敦	王 秀峰	大村 茂夫	岡松 正敏	岡松 優子	小澤 敦子
小内 透	小野 憲一	小原 大和	金川 眞行	菅野 三信	菊池 健二	北野 溥	熊谷 公宏
近藤 哲也	渋谷 正人	白尾 誠二	瀬名波栄潤	高橋貴代美	高橋 光彦	竹森 義男	館崎 真司
谷本 康子	玉置 公一	玉木 長良	千田 敬喜	土家 琢磨	寺澤 睦	豊田 威信	中沢 洋
成田 敏夫	新田 孝彦	野坂 政司	髭白 光司	堀口 郁夫	堀田真一郎	松野 篤二	向井地博之
武藤多津郎	村上 一夫	安井 浩	山川 浩一	山口 佳三	山口 利昭	山崎 賢司	山城 明伸
吉川 友二	吉田 広志	渡辺 慎一					

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人等）

旭川赤十字病院、元祖ジンギスカン義経、パルク動物病院、株式会社ペットランド

（個人）

青木 直子、竹森 義男、堀口 郁夫、山口 利昭

感謝状の贈呈



株式会社北海道新聞社様（平成24年7月31日）

高額寄附者との懇談会

8月1日（水）、昨年7月以降に高額の寄附をいただいた個人14名、法人17社（27名）の方々を本学にご招待し、懇談会を開催しました。当日は、経営協議会が開催される第一会議室に集合いただき、はじめに鑄山賢一理事の挨拶があり、総長室に移動し展示物の見学及び佐伯 浩総長との記念撮影を行った後、百年記念会館会議室において懇談会を行いました。懇談会では、佐伯総長から寄附へのお礼が述べられ、寄附者の方々と本学役員との懇談が和やかに行われました。



懇談会で挨拶する佐伯総長

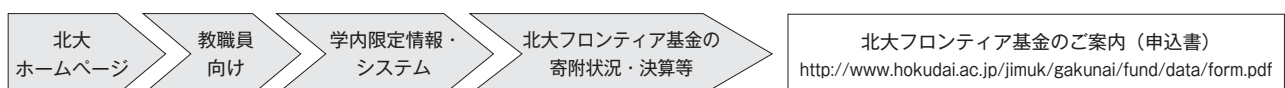


懇談会の様子

ご寄附のお申し込み方法

① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部署事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

平成24年度 公益財団法人北海道大学クラーク記念財団 助成事業の決定

公益財団法人北海道大学クラーク記念財団では、本学の教育研究、学生支援等に対し毎年助成事業を行っていますが、本年度につきましては次のとおり決定しました。

なお、助成金額は、今後の予定も含め、総額41,080,000円となっています。

(総務企画部総務課)

1. 教育研究活動支援事業

(1) 博士後期課程在学学生研究助成

採択数 15件 採択金額 7,500,000円

氏名	所属部局等	学年等	研究課題名	助成額
西出 佳代	文学研究科	DC 3年	ルクセンブルク語の音韻記述－通時的分析と他言語との比較による共時的位置づけ－	500,000円
長谷川征史	文学研究科	DC 3年	拡散テンソル画像による脳発達期の甲状腺ホルモン阻害が白質形成に与える影響の検討	500,000円
木村 花菜	教育学院	DC 2年	生活現実から立ち上がるコミュニティ・アートの実践論理の解明	500,000円
荒木 奈美	教育学院	DC 1年	子どもの主体性を育てる教授法に関する考察－実践者の聴き取り調査を中心に－	500,000円
孫 友容	法学研究科	DC 2年	自動公衆送信の研究－技術発展と著作権法上の権利との関係に関する考察を中心として－	500,000円
佐藤 隆博	医学研究科	DC 3年	肺高血圧症の血管病変および心機能評価系の確立	500,000円
菅野 宏美	医学研究科	DC 4年	悪性髄膜腫におけるCD163の発現と機能解析	500,000円
鶴山 真紀	歯学研究科	DC 4年	PTH間歇投与による骨形成作用に対する低分子量インヒビターの影響	500,000円
井上 沙織	歯学研究科	DC 3年	歯科インプラント用カーボンナノチューブコーティング陽極酸化チタンの開発	500,000円
谷内田 渉	歯学研究科	DC 4年	睡眠ブラキシズム活動量と上顎装着型スプリント上の磨耗との相関	500,000円
齊藤 元貴	工学院	DC 2年	液中プラズマにより作製したリチウムイオン電池電極材料の特性評価	500,000円
渋川 敦史	情報科学研究科	DC 2年	超高密度3次元光メモリの実現に向けた多層化コリニアホログラフィックメモリの研究	500,000円
福原 克郎	環境科学院	DC 3年	金属錯体を基盤とした革新的CO ₂ 吸着分離材料の開発	500,000円
李 鳳	国際広報メディア研究科	DC 3年	「思う」と「생각한다 (sayngkakhata)」の日韓対照研究	500,000円
古堅 彩子	生命科学院	DC 3年	プロスタノイドの放出過程におけるトランスポータの寄与に関する研究	500,000円

(2) 新渡戸基金研究助成

採択数 3件 採択金額 1,000,000円

氏名	所属部局等	職名	研究課題名	助成額
井上 高聡	大学文書館	助教	半澤洵関係資料の研究	300,000円
高倉 純	文学研究科	助教	E.S.モースの札幌農学校訪問の実態調査－考古・民具資料の調査を中心に－	350,000円
加藤 克	北方生物圏フィールド科学センター	助教	八田三郎の動画フィルムの歴史的背景に関する研究	350,000円

2. 教育研究国際交流支援事業

(1) 博士後期課程在学生海外派遣助成 (学会等発表)

採択数 15件 採択金額 2,230,000円

氏名	所属部局等	学年等	会議名	助成額
Bitabarova Assel	文学研究科	DC 1年	Non-governmental dialogue on territorial disputes in Asia-Pacific Region	150,000円
小杉 雅俊	経済学研究科	DC 2年	International Conference on Business Management 2012 in Australia	150,000円
田邊 起	医学研究科	DC 4年	米国移植学会議	150,000円
鶴山 真紀	歯学研究科	DC 4年	2012年 米国骨代謝学会 2012 Annual Meeting of the American Society for Bone Mineral Research	150,000円
永根 大幹	獣医学研究科	DC 3年	第19回米国フリーラジカル学会議	150,000円
栢場 皓之	情報科学研究科	DC 3年	先進的メカトロニクス分野についての国際会議 IEEE/ASME International Conference on Advanced Intelligent Mechatronics (AIM 2012)	130,000円
西川 翔	水産科学院	DC 3年	第10回欧州連合油科学会議 10th European Federation for the Science and Technology of Lipids Congress	150,000円
Boonmak Chanita	環境科学院	DC 2年	米国微生物学会2012年度大会	150,000円
Lukana Ngwisara	農学院	DC 3年	第26回国際炭水化合物シンポジウム	150,000円
Ravi Kumar	生命科学院	DC 2年	第13回テトラヘドロンシンポジウム	150,000円
櫻井 遊	生命科学院	DC 3年	国際コントロールド・リリース学会 第39年会	150,000円
杉江 聡子	国際広報メディア・観光学院	DC 2年	The Second International Conference on Advanced Collaborative Networks, Systems and Applications (COLLA 2012)	150,000円
木村 正興	工学院	DC 2年	Particle Separation 学会 (IWA特別会議) IWA Specialist conference on Particle Separation	150,000円
Salinas Villafane Omar Roberto	工学院	DC 3年	第11回ジオ・エンバイロメンタルエンジニアリングに関するジョイントセミナー2012 11th Joint Seminar on Geo-Environmental Engineering 2012	150,000円
榎田 祐輔	総合化学院	DC 3年	第25回国際有機金属化学会議	150,000円

(2) 学部学生等海外派遣助成 (留学)

採択数 ①長期留学 14件 ②短期留学 2件 採択金額 3,640,000円

①長期留学 (交流協定のある大学に私費留学する場合)

氏名	所属部局等	学年等	留学先・留学期間	助成額
元由 綾子	文学部	3年	韓国 (ソウル市立大学) <H24.4.1 ~ H24.12.17>	250,000円
田中 好	文学部	4年	フランス (ストラスブール大学) <H24.9.3 ~ H25.7.8>	250,000円
大坪 広明	文学研究科	MC 2年	フランス (ストラスブール大学) <H24.9.3 ~ H25.6.30>	250,000円
一戸 宏介	経済学部	3年	フィリピン (デラサール大学) <H24.9.12 ~ H24.12.18>	250,000円
松浦 友香	経済学部	4年	台湾 (国立台湾大学) <H24.9.1 ~ H25.1.14>	250,000円
清野 広平	経済学研究科	MC 2年	イギリス (エジンバラ大学) <H24.9.1 ~ H24.12.31>	250,000円
宮本 桃子	農学部	2年	ドイツ (ミュンヘン工科大学) <H24.8.20 ~ H25.8.1>	250,000円
仲 丹梅	教育学部	3年	アメリカ合衆国 (ハワイ大学マノア校) <H24.8.11 ~ H24.12.31>	250,000円
徳永 透子	工学院	MC 2年	ポーランド (AGH科学技術大学) <H24.8.31 ~ H25.1.8>	250,000円
小林 晋	経済学部	3年	フィンランド (オウル大学) <H24.9.1 ~ H25.5.31>	250,000円
関 志保美	経済学部	4年	韓国 (高麗大学校) <H24.8.25 ~ H24.12.25>	250,000円
今井 憲佑	経済学部	4年	フランス (グルノーブル大学連合) <H24.9.1 ~ H25.1.20>	250,000円
高橋 風人	経済学部	4年	ハンガリー (ブタペスト工科大学) <H24.9.1 ~ H25.1.1>	250,000円
西田 大祐	水産学部	4年	韓国 (釜慶大学校) <H24.4.1 ~ H25.2.7>	250,000円

②短期留学（全学教育における語学成績の優秀な者で、海外留学を希望する場合）

氏名	所属部局等	学年等	留学先・留学期間	助成額
中前 綺捺	文学部	2年	アメリカ合衆国（ポートランド州立大学） ＜H24年度春季休業期間を予定＞	70,000円
中野 貴文	文学部	2年	台湾（国立台湾大学） ＜H25.2.1～H25.7.31＞	70,000円

(3) 外国人留学生奨学金助成（給付・単年度限りとする）

採択数 3件 採択金額 1,800,000円

氏名	所属部局等	学年等	国籍	助成額
黄 浄愉	法学研究科	DC3年	台湾	月額 50,000円
ジュリア ジェレミー	情報科学研究科	DC3年	フランス	月額 50,000円
尹 海燕	理学院	DC3年	中国	月額 50,000円

3. 奨学育英事業

学部学生奨学金助成（貸与）

採択数 ①平成24年度新規 10件 ②継続者 26件 採択金額 21,600,000円

①平成24年度新規

氏名	所属部局等	学年等	貸与期間	助成額
山城 文彦	法学部	1年	H24年4月～H28年3月	月額 50,000円
阿迦井 柊	経済学部	3年	H24年4月～H26年3月	月額 50,000円
鈴木 智貴	理学部	3年	H24年4月～H26年3月	月額 50,000円
為永 節雄	医学部（医学科）	1年	H24年4月～H30年3月	月額 50,000円
亀野 力哉	医学部（医学科）	2年	H24年4月～H29年3月	月額 50,000円
伊藤 智樹	医学部（医学科）	3年	H24年4月～H28年3月	月額 50,000円
村上 雅一	医学部（医学科）	3年	H24年4月～H28年3月	月額 50,000円
木富 正裕	農学部	1年	H24年4月～H28年3月	月額 50,000円
峯 淳貴	獣医学部	4年	H24年4月～H27年3月	月額 50,000円
有村 朋晃	水産学部	1年	H24年4月～H28年3月	月額 50,000円

今後の予定

2. 教育研究国際交流支援事業

学部学生等海外派遣助成（留学）

採択数 15件 採択金額 2,310,000円

4. その他の事業

学業優秀者表彰助成（クラーク賞）

採択数 50件 採択金額 1,000,000円

平成24年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙

7月12日（木）、情報教育館スタジオ型多目的中講義室において、平成24年度北海道大学新渡戸賞授与式を行いました。

新渡戸賞は優秀な学生を育成することを目的として平成17年に設けられた制度で、学部1年次における学業成績が優秀で、他の学生の模範になると認められる2年次生に対して、奨励金が給付されます。今回は91名が受賞しました。

授与式には、山口佳三理事・副学長、村田幸彦学務部長の列席の下、山口理事・副学長から受賞者代表へ賞状が授与されました。

続いて山口理事・副学長から、新渡戸稲造博士の業績についてのお話と共に『『フロンティア精神』、『国際性の涵養』、『全人教育』及び『実学の重視』を忘れずに、積極的に教養を養いつつ、限られた大学生活の期間を悔いのない

よう過ごしていただきたい」と激励の挨拶がありました。

受賞者は、偉大なる先輩の名を冠した奨励金を授与されたことにより、今後も勉学に一層励むべく自覚を新たにしていました。

（学務部学生支援課）



授与式の様子



山口理事・副学長から賞状を授与

新渡戸賞受賞者の学部卒業時の成績について

新渡戸賞受賞者の学部卒業時における学業成績の追跡調査を行いました。グラフに示されているとおり、397名中339名が卒業時における成績上位10%以内に入っており、受賞者は受賞時（学部1年次）の優秀な成績を維持したまま、卒業していることがわかります。本学では今後も本賞を継続し、優秀な学生の育成に邁進して参ります。

新渡戸賞受賞者の学部卒業時における成績順位の分布

●調査対象者

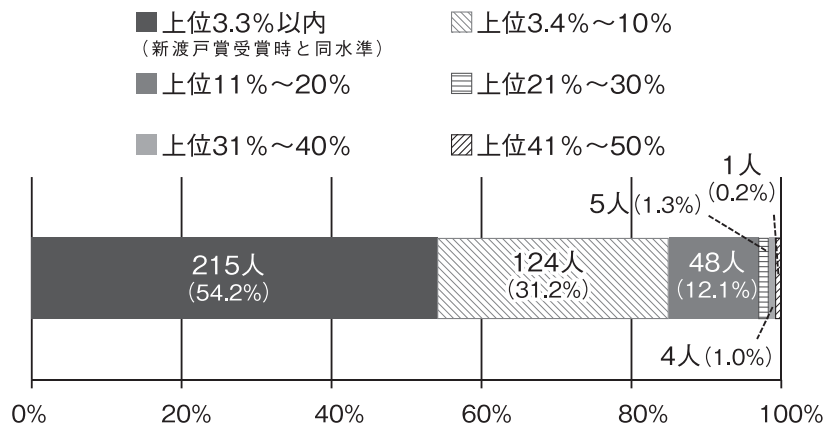
H17年度～H21年度の5カ年の受賞者（H19年度～H23年度卒業生）のうち、標準修業年限で卒業した者

●対象者数

397名（受賞者数449名）

●調査方法

卒業時における、所属学部での成績順位を調査



平成24年度北海道大学公開講座「私たちの未来とリスク」を開催

7月2日(月)から30日(月)まで、情報教育館スタジオ型多目的中講義室において、「私たちの未来とリスク」をテーマに本年度の公開講座を開催しました。

本講座では、東日本大震災を契機として、私たちの社会のあり方が見直されるなか、これからの科学技術や防災、エネルギー、社会福祉などのあり方について、「リスク」をキーワードとして検討が行われました。

各回の講義題目と講師は、第1回「健康とリスクー健康の社会的規定要因ー」(教育学研究院 河口明人教授)、第2回「『少子化する高齢社会』のリスクとタスク」(文学研究科 金子勇教授)、第3回「福島原発事故から

見る科学技術の社会的リスク」(法学研究科 鈴木一人教授)、第4回「子ども・若者が直面する『リスク』と貧困・社会的不利」(教育学研究院 松本伊智朗教授)、第5回「地球温暖化と二酸化炭素ー陸上生態系による調節ー」(農学研究院 平野高司教授)、第6回「地震予知研究ー最新の成果と課題ー」(理学研究院 勝俣 啓准教授)、第7回「次世代分散型電源と自然冷熱エネルギーの有効利用」(工学研究院 濱田靖弘准教授)、第8回「北方圏都市の持続的発展の未来像」(サステイナビリティ学教育研究センター 田中教幸教授)で、全8回を通しての受講者は91名、1回のみの受講者は11名でした。

各回の講義終了後には、受講者から熱心な質問が寄せられました。また、第4回の講義である7月12日(木)には本学と上富良野町、第6回の7月23日(月)には本学と西興部村の間でインターネットを利用した遠隔公開講座を実施し、上富良野町及び西興部村の受講者と講師による質疑応答が行われました。

なお、最終講義の終了後には閉講式が行われ、6回以上出席した74名の受講者に、木村 純高等教育推進機構高等教育研究部生涯学習計画研究部門長から修了証書が手渡されました。

(学務部教務課)



熱心に講義を聴く受講者



修了証書の授与

北海道大学入試説明会を実施

7月18日(水)午前10時から、学術交流会館において、道内高等学校等の進路指導担当教諭を対象とした入試説明会を開催し、高等学校等98団体から150名の参加がありました。

説明会では佐伯 浩総長の挨拶に続き、山口佳三アドミッションセンター長から本学の現状、小内 透アドミッションセンター副センター長から平成

24年度入試結果の概要について、それぞれ説明がありました。

その後、質疑応答が行われ、さらに説明会の一環としてアドミッションセンター教職員による個別相談会が実施され、総合入試等に係る質問が寄せられました。

(アドミッションセンター)



佐伯総長の挨拶

平成24年度 知的財産に関するセミナーを2件開催

8月2日（木）、産学連携本部主催による知的財産に関するセミナーを2件、北キャンパス創成科学研究棟5階大会議室で開催しました。

（産学連携本部）

カルタヘナ法（遺伝子組み換え生物等の使用等の規制）及び 生物多様性条約名古屋議定書（遺伝資源へのアクセスと利益配分：ABS）に関するセミナー

遺伝資源へのアクセスと原産国への利益配分（Access and Benefit Sharing：ABS）については、平成22年10月に開催された生物多様性条約第10回締結国会議（COP10）において、国際的な法的拘束力をもった「名古屋議定書」が採択されたことから、日本でも今後その批准に向けた動きが求められているところです。

このような状況をふまえ、研究者及び事務職員等への啓発活動を目的として、文部科学省から研究振興局ライフサイエンス課 生命倫理・安全対策室 宮脇 豊室長補佐、国立遺伝学研究所から知的財産室 鈴木陸昭室長を講師にお招きし、カルタヘナ法及び生物多様性条約名古屋議定書に関するセミナーを開催しました。当日は58名の教

職員及び学生が参加し、講師から、カルタヘナ法の概要、遺伝子組み換え実験を行う際の留意事項、名古屋議定書に基づく遺伝資源の取扱方法などについて、説明が行われました。質疑応答の時間には、遺伝資源の国内外への持ち込み・持出しに関する質問や国の方針やルール策定に関する要望が寄せられ、活発な情報交換の場となりました。



説明する宮脇講師



説明する鈴木講師



質疑応答の様子

平成24年度 成果有体物関連事務講習会（実務担当者向け）

成果有体物関連事務講習会は、昨年度から、学内の成果有体物関連事務の実務担当者向けに産学連携本部が実施しているものであり、今年度は、札幌キャンパス各部局から事務職員等24名が参加しました。

講師は産学連携本部の須佐太樹産学連携マネージャーが担当し、本学における成果有体物（研究サンプル）の取扱、安全保障輸出管理制度、知的財産権との関係性の観点から見た成果有体物の取扱、特許権に関する基礎知識に

ついて、具体的な事例に基づいて説明が行われ、参加者は成果有体物関連事務についての理解を深めていました。

この講習会は今後も知的財産に関する知識向上のため、より一層充実させた形で継続していく予定です。



説明する須佐マネージャー



熱心に受講する参加者

平成24年度北海道大学情報セキュリティセミナーを開催

7月11日（水）午後3時から、情報環境推進本部主催による平成24年度北海道大学情報セキュリティセミナーを工学部B21教室で開催しました。

今回のセミナーでは、本年4月に施行された本学の新セキュリティポリシーについて、高井昌彰情報基盤センター長から説明が行われた後、トレンドマイクロ株式会社ソリューション事業本部ソリューションサービス部 部長代行の平原伸昭氏より「標的型攻撃の攻撃手法」と題して、昨今、企業や官公庁を標的として行われるサイバー

攻撃の実態や対処について講演が行われました。

会場には約50名の学生及び教職員が集まり、講演後には標的型攻撃の対処に関する熱心な質疑応答が行われました。

なお、情報環境推進本部では今後も、情報セキュリティに関し引き続きセミナーを開催する予定ですので、教職員・学生の方々の多数の参加をお願いします。

（情報環境推進本部情報推進課）

- ◆ 国立大学法人北海道大学における情報セキュリティの基本方針

<http://ict.general.hokudai.ac.jp/hp-file/hoshin.pdf>

- ◆ 国立大学法人北海道大学情報セキュリティ対策規程

<http://ict.general.hokudai.ac.jp/hp-file/kitei.pdf>



セキュリティポリシーを説明する
高井情報基盤センター長



講演するトレンドマイクロ株式会社
平原部長代行

「出入国管理制度説明会」を開催



多くの参加者で埋まった会場

6月20日（水）に、情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室において、「出入国管理制度説明会」を開催しました。

7月9日（月）から新しい在留管理制度の導入を控えていたこともあり、本学関係職員をはじめ37機関・団体から117名の多数の参加がありました。

説明会の開催に当たって、今年度についても法務省札幌入国管理局に「出入国管理制度について」の講義をお願いし、札幌入国管理局統括審査官 島田夏紀氏による講義に、参加者一同が熱心に耳を傾けていました。

また、講義終了後も、長時間にわたって講師に質問する参加者の姿が見受けられました。

（国際本部国際支援課）

留学生と地域との交流「ホリデー in ひだか」を開催



全員揃っての記念撮影

7月21日(土)・22日(日)の2日間、国際本部留学生センターと国立日高青少年自然の家の共催で、「ホリデー in ひだか」を開催し、8か国40名の外国人留学生(うち4名はインターンシップ研修生)とファシリテーター学生24名(日本人学生22名、日本語・日本文化研修コース研修生2名)が参加しました。

今年で22回目となるこの交流事業は、日高町で開催される『ひだか樹魂まつり』に留学生が参加することにより、日本の伝統的なお祭りを体験し、地域の人々との交流を通して地方の生活・文化を学び、友好の輪を広げることが目的としています。

1日目は、昼前に国立日高青少年自然の家に到着し、オリエンテーションを行った後、グリーンホールに移動してバーベキューで昼食をとり、留学生と日本人学生が交流を深めました。

引き続き、日高町のこもればいホールに移動し、パレードで踊る日高観光音頭を練習した後、こもればいホール前から日高町の道の駅まで町内の方々と一緒に踊りながら練り歩き、練習の成果を存分に披露しました。

夜には日高青少年自然の家にはほど近いお祭り会場の日高山岳ビラパークに移動し、出店を楽しみ、和太鼓や歌などのステージを鑑賞した後、沙流川の

河川敷で開かれた盛大な花火大会に歓声をあげました。

花火大会では、不発花火が観客席に落下するというアクシデントがありましたが、本学から参加した学生や引率の教職員にけがなどはありませんでした。

2日目は、朝の部屋の清掃を済ませてから朝食をとった後、日高青少年自然の家のインターンシップとして参加している札幌国際大学の学生による「交流プログラム」に参加し、皆が思い思いに楽しんでいました。

続いて、午前中にお祭り会場へ移動した後、午後から1チーム5名が300kgの丸太を引っ張って運びタイムを競う「流送レース」の予選に北大の4チームと地元の4チームが参加し、本学の1チームを含めた上位4チームが1時間半後に行われた本選に出場しました。惜しくも北大チームは4位という結果に終わりましたが、応援の学生とともに喜びに沸いていました。

また、「流送レース」の合間に国際ステージが催され、5名の留学生が歌や踊りを披露し、地元の方々からも大きな拍手を浴びていました。

お祭りの最後に「もちまき」が行われ、地元の方々と一緒に皆歓声をあげながら参加して楽しんでいました。

最後の「別れのつどい」では、参加



バーベキューでの交流



交流プログラムに参加



丸太を運ぶ流送レース



ステージで歌う留学生

者を代表して留学生とファシリテーター学生が、この事業に参加して大変楽しかったという感想とともに、企画した関係者に感謝の言葉を述べました。

今年は、ほぼ天候に恵まれ、参加した留学生とファシリテーター学生は日高の雄大な自然の中で繰り広げられた祭りを通して、地域との交流とお互いの友情を深めました。

(国際本部国際支援課)

山中伸一文部科学審議官が来学

7月10日（火）、山中伸一文部科学審議官が本学を訪問し、創成研究機構、人獣共通感染症リサーチセンターなどを視察されました。

山中文部科学審議官は、佐伯 浩総長と大学の現状等について意見を交わされた後、学内の研究施設の視察を行いました。

創成研究機構では、研究支援室のゴータム・ピタンバル准教授から同機構の概要等について説明を受けるとと

もに、小惑星探査機はやぶさが持ち帰った小惑星微粒子を分析した同位体顕微鏡システムを見学、伊藤正一助教から研究内容について説明を受け、活発な質疑が行われました。

また、生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センターでは、幸田敏明センター長から同センターの概要や、疾患を持つマウスなどの実験動物を使った安全な薬の開発などの研究紹介が行われ、熱心に耳を傾けられました。

さらに、共同利用・共同研究拠点である人獣共通感染症リサーチセンターでは、喜田 宏特任教授から同センターの国際的な活動状況について説明を受け、活発な意見交換が行われました。

（総務企画部総務課）



同位体顕微鏡システム見学の様子



幸田教授から説明を受ける山中審議官（右奥）



喜田特任教授らと意見交換を行う山中審議官（右手前）

放射線障害防止のための教育訓練の実施

7月26日（木）に、放射性同位元素等の取扱者を対象にした「放射線障害防止のための教育訓練」をクラーク会館講堂で開催しました。

この教育訓練は、放射性同位元素等を取り扱う際の障害を防止するため、取扱者に必要かつ安全な取扱い及び関係法令等についての基礎的な知識等を身につけることを目的として、法令で受講が義務づけられているものです。

今回は、職員・学生等合わせて約100名が出席し、本学放射性同位元素等管理委員会の委員等を講師として、

「放射性同位元素等又は放射線発生装置の安全取扱い」「放射線の人体に与える影響」「関係法令」など、放射線を取り扱う上で必要な基礎知識について、講義が行われました。

今年度の本教育訓練は、秋頃にも実施する予定です。新たに放射性同位元素等を使用するに当たり、取扱者登録しようとする方及び更新登録を希望する方で、今年度にまだ受講していない方は、必ず受講してください。

（総務企画部総務課安全衛生室）



幸田敏明委員長の挨拶



関 興一特任教授の講義

構内で発生した伐採木・剪定枝を配布

6月30日（土）、7月1日（日）の2日間、札幌キャンパス構内で発生した伐採木・剪定枝を、薪ストーブを利用されている方やガーデニングでの利用を希望している市民の方々へ無料で配布しました。今回は125名の申込みがあり、抽選により42名の参加を受け付けました。

近年、薪ストーブの普及が進んでいますが、薪の調達に苦勞している世帯が多く、そのため申込者からは、このような配布を定期的に行ってほしいとの要望が多く寄せられました。廃棄処分される予定だった伐採木・剪定枝を有効活用することができ、化石燃料の使用を減らし、再生可能エネルギー利

用を増やすことによる二酸化炭素排出量削減とキャンパスの環境維持が結びつく行事であるため、今後の開催を検討しています。

（サステイナブルキャンパス推進本部）



配布開始直後の様子



配布終了後の様子

「省エネルギー講習会-2012夏-」を開催

7月2日（月）、学術交流会館で「省エネルギー講習会-2012夏-」を開催しました。株式会社東洋実業設備事業本部参事 辻 晋治氏を講師にお迎えし、省エネルギー対策のポイントにつ

いて講演していただきました。学内からの参加者は53名でした。

辻氏からは、改修工事の事例から「本来あるべき省エネの姿」をご紹介いただきました。空調設備対策を行う場合、

断熱対策を行った後に空調設備更新を行う、空調のフィルターを清掃する、水道からの水量を必要な水圧に調整するなど、効果のある事例は大変興味深いものでした。教職員からは、「4月や10月などにガスの使用量が増える原因として何が考えられますか？」という質問もあり、「省エネ」を積極的に考えている様子が見受けられました。

（サステイナブルキャンパス推進本部）



講演の様子



講演での説明スライド

環境広場さっぽろ2012に出展



子ども達がアンケートに回答している様子

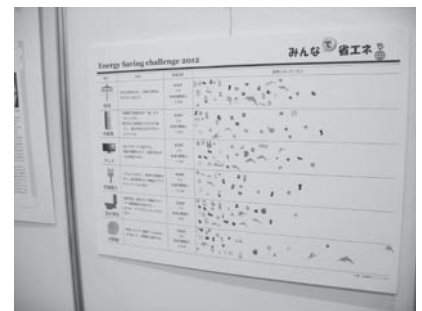
7月27日（金）～29日（日）、昨年に引き続き、アクセスサッポロにおいて「環境広場さっぽろ2012」が開催され、出展しました。この環境展は、平成15年から札幌市が中心となった実行委員会主催で開催され、産学官民の取り組みを広く周知し、環境ビジネスの普及促進を図るとともに、エコライフを实践するための情報の取得や、地球環境を守るための行動につなげる場となるような総合展示会を目指しています。今年は62の企業・団体が参加し、本学のブースへの来場者数は約1,600名でした。

本学の出展テーマは「北大のサステイナブルキャンパスへの取組」として、パネル展示や、パンフレット・紙うちわの配布を実施しました。また、子

も達に「みんなで省エネ！」と題して、家庭で実践している省エネ活動について、用意したパネルへシールを貼ってもらい、親子で省エネ活動の取組みを確認するような仕掛けを用意しました。子ども達から「これも家でやっているよ！」という声が多く聞かれ、また、照明の節電に関してはほぼ100%の家庭で実施していることがわかり、子ども達が省エネを日常生活で自然に実践している様子がうかがえました。

今回の展示は、国際本部国際連携課からの画像提供、施設部環境配慮促進課によるパネル制作やブース担当の協力により実施されました。関係者の皆様に改めてお礼申し上げます。

（サステイナブルキャンパス推進本部）



たくさんのシールが貼られたアンケートボード



本学のブース

■ 部局ニュース

グローバルCOEプログラム「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」主催 国際サマースクール2012を開催



様似町との交流会での集合写真（中央：坂下一幸様似町長，写真は様似町提供）

6月25日（月）から7月3日（火）にかけて、札幌キャンパス及び様似町において、グローバルCOEプログラム「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」主催による国際サマースクール2012 in 様似“Sustainability for coupled human and nature（自然—社会のつながりと持続可能性）”を開催しました。

地球規模で経済や環境が変動していく中で持続可能な地域社会を構築することは、人類が将来にわたって生存していくために取り組むべき重要な課題です。本プログラムでは、博士課程の大学院生を対象に、この分野で将来の国際共同研究を立案・牽引できるような能力を身につけることを目指しています。そこで、自然環境が豊富な様似町において海外の大学院生と共に自然や地域産業、人々の暮らしについて学び、そしてさらなる研究の可能性についてグループ討論するトレーニングが行われました。様似町と北方生物圏フィールド科学センターは2011年3月に包括的連携協定を結び、学術、教育及び文化の発展に関する協力を進めています。

今年は、インド、中国、アメリカ、ロシアなどからの海外の大学院生と本学環境科学院の大学院生を合わせて10カ国から22名が参加しました。海外からは26ヶ国から79名もの参加申し込みがあり、4回目を迎える本サマース

クールが海外でも高く評価、認知されていることがうかがえました。本サマースクールが、IGBP*1とIHDP*2のコアプログラムである全球陸域研究計画（Global Land Project：GLP）札幌拠点オフィスや、フィールド研究サイトの世界的ネットワークである国際長期生態学研究ネットワーク（ILTER）の共催であること、そして本学国際本部の協力を得て海外募集を行ったことも、国際的に高い関心を得ることができた要因でした。

サマースクールでの講義や指導には、北方生物圏フィールド科学センター森林圏、耕地圏、水圏ステーション、及び地球環境科学研究院の教員が担当しました。また元理学研究院地球惑星システム科学分野の新井田清信先生、Russian State University of HumanitiesのAnastasia Bancheva准教授にはフィールドセッションや講義を担当いただくなど懇切にご協力いただきました。様似町には現地でのフィールド見学、交流会など、全体のプログラムを通じて多大なるご支援・ご協力をいただきました。

本プログラムでは、フィールド観察と調査観測技術の習得、参加者による各自の研究ポスター発表、講義、様似町との交流会、グループ討論・発表などを行いました。参加者は、自然—社会のつながりについて初日に札幌で講義を受けた後、様似町に移動し、アポ



グループ発表の準備をする参加者

イ岳の特異な地質（かんらん岩）や高山植物、河川水質、新たな農業の実践、沿岸生態系におけるコンブの生産と、山から海までのつながりあった生態系を網羅する内容について、その背景や調査・観測手法及び地域産業について学びました。また、環境に配慮したマーケティングや、気候変動が植生に及ぼす影響に関する講義がありました。

様似町でお世話になった方々との交流会では、様似町の印象や、持続可能な地域社会の構築に向けた提言について、大学院生からのグループ発表が行われ、様似町の皆様から「さまざまな具体的なアイデアに対して非常に参考になった」「元気づけられた」との声が寄せられました。

そして最終日の討論では、3～4人のグループに分かれ、様似町での持続可能な社会の構築のために研究者として今後できることについて自然科学・社会科学の両面から討論・発表し、活発な議論が交わされました。

プログラムを通じて参加者は積極的かつ協力的に取り組み、これらの経験は自身のスキルアップと参加者間の信頼関係構築につながりました。この交流が今後も続き、将来のフィールド環境科学における国際的連携や共同研究の発展につながることを期待されます。

*1 IGBP：国際地球圏生物圏協同研究計画

*2 IHDP：地球環境変化の人間の側面に関する国際研究計画

（環境科学院・地球環境科学研究院）

電子科学研究所創立20周年 附属グリーンナノテクノロジー研究センター発足記念式典を開催

電子科学研究所の創立20周年・附属グリーンナノテクノロジー研究センター発足を記念し、7月27日（金）午後3時から京王プラザホテル札幌において、文部科学省関係者をはじめ総長、名誉教授のほか、多数のご来賓にご列席いただき、記念式典、記念講演会並びに記念祝賀会を開催しました。

記念式典では、三澤弘明電子科学研究所長による式辞、佐伯 浩総長の挨拶の後、澤川和宏文部科学省研究振興局学術機関課長、八木康史大阪大学産

業科学研究所長、國武豊喜北九州産業学術推進機構理事長及び木場保洋北海道総合政策部科学IT振興局長から祝辞をいただきました。

引き続き開催された記念講演会では、科学技術振興機構の川上伸昭総括担当事業により「電子科学研究所への期待」と題した講演が行われました。さらに、電子科学研究所の上野貢生准教授、新倉謙一准教授の講演が行われました。

記念祝賀会では、三澤電子科学研究

所長の挨拶、河村純一東北大学多元物質科学研究所長からの祝辞があり、新田孝彦理事・副学長の発声で祝宴に入りました。その後、朝倉利光名誉教授、福岡 淳触媒化学研究センター長、長田義仁名誉教授（理化学研究所基幹研究所副所長）からスピーチをいただき、最後は、本堂武夫理事・副学長の閉宴の辞で閉会となりました。

（電子科学研究所）



式典で式辞を述べる三澤電子科学研究所長



式典で挨拶する佐伯総長



式典で来賓として挨拶する
澤川文部科学省研究振興局学術機関課長

スラブ研究センターが新学術領域研究の国際シンポジウムを開催

7月4日（水）～6日（金）の3日間、スラブ研究センター大会議室で第7回新学術領域国際シンポジウム「帝国から地域大国へ、国家と非国家の間で」を開催しました。これは、最終年度を迎えた新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較」における最後の国際的な催しで、主に第2班（内政班）と第5班（社会班）が担当しました。

1日目には、国際若手ワークショップとセオドア・ウィークス特任教授の記念講演がありました。若手ワークショップの3件の報告は、非承認国家問題と正教会の分離独立に関わるものであり、シンポジウム全体の内容と呼応していました。

2日目の基本コンセプトは「トランスナショナリズム*」でした。これは、地域大国の強さは国別に政治・軍事・経済資源を測るようなやり方ではわか

らず、むしろトランスナショナルなアクターをうまく利用しているか、それらと協業しているかが重要であるという第5班の基本思想から導き出されたものです。「帝国と政治地理」、「宗教

政治とトランスナショナリズム」、「地域大国の周縁と『近隣外国』を跨ぐ紛争」の3セッションが行われ、9件の報告が行われました。

3日目の基本コンセプトは「権威主



国際シンポジウムの様子

義体制」でした。中国はまだ古典的権威主義体制であり、CIS諸国（旧ソ連の一部で構成された独立国家共同体）の大半では競争的権威主義体制が成立しています。1990年代に盛んだった民主化論は、古典的権威主義体制から競争的権威主義体制への移行を逸脱としか見ませんでした。今日では競争的権威主義体制は、それ自体が実証研究の対象として認められています。「競争的権威主義体制の比較：理論的挑戦」、「体制転換か、それとも体制動態か？政治的揺れ戻しの比較研究」、「地域大国の権威主義的な指導者と説」の3セッションが行われ、9件の報告

が行われました。

若手シンポジウムも含めた報告者の国別内訳（国籍ではなく勤務地別）は次のとおりです。日本10名、アメリカ7名、ドイツ・イスラエル・ルーマニア・ウクライナ・オーストラリア各1名。内容上のバランスについては、パキスタンから来る予定だった研究者が1名キャンセルになったこともあり、南アジアに言及した報告が3件にとどまったことが残念でした。

なお、シンポジウムの後、外国人ゲストのうち希望者は、大阪大学と早稲田大学に分かれてセミナーを行いました。

*国際関係論の理論で、国家よりも多国籍企業・国際NGOなどの国境を越えて活動するアクターに注目すること。

(スラブ研究センター)



質問する参加者

情報法政策学研究センターで日中韓シンポジウム 「動く社会、動く知的財産法～東アジアの視点からの提案」を開催



3拠点リーダー及び中国側報告者

情報法政策学研究センターは、グローバルCOEプログラム「多元分散型統御を目指す新世代法政策学」と共催で、7月28日（土）・29日（日）の2日間、人文・社会科学総合教育研究棟において、日中韓知的財産権国際シンポジウム「動く社会、動く知的財産法～東アジアの視点からの提案」を開催しました。

この日中韓シンポジウムは、本センター、中国中南財経政法大学知識産権研究センター及び韓国韓中知識産権学会の三者が、3国間の知的財産権に関する学術交流及び連携協力を目的に昨年締結した協定に基づき、昨年のソウ

ルでの開催に続いて、本センターで2回目の開催となるものです。

中国中南財経政法大学校長 呉漢東教授、韓国東国大学 朴榮吉名誉教授による基調講演でシンポジウムの幕が開かれました。シンポジウムには、計6つのセッションが設けられており、中国から6名、韓国から7名、そして日本から6名の報告者によるプレゼンテーションが行われ、国際的交流にふさわしいトピックが並びました。全セッション終了後、本センター長 田村善之教授がクロージング・レクチャーを務め、シンポジウムを締め括りました。



シンポジウムの様子



講演する韓国東国大学 朴名誉教授

今回のシンポジウムは、報告者のほか、本センター、法学研究科、国内外の研究機関からの研究者、大学院生など50名を超える参加者を得て、活発な議論が繰り広げられ、盛会裡に閉幕しました。

(情報法政策学研究センター)

会計専門職大学院で（社）日本内部監査協会との共同セミナーを開催



多くの参加者で埋まった会場

会計専門職大学院（経済学研究科会計情報専攻）では、7月23日（月）午後1時から、学術交流会館小講堂において、社団法人日本内部監査協会との共催（後援：札幌証券取引所）で、「組織運営と内部監査」というテーマで共同セミナーを開催しました。

セミナーでは、はじめに北海道旅客鉄道株式会社監査部グループリーダーの鈴木秀章氏が、「内部監査入門：内部監査の実施と品質向上の取組」と題して講演を行いました。

引き続き、「組織運営と内部監査～ステークホルダーの期待にいかに応えるか～」というテーマの下で、北海道旅客鉄道株式会社 鈴木氏、株式会社メディカルシステムネットワーク内部監査室長 工藤孝正氏、札幌証券取引

引所上場審査部長 天羽 正氏、北海道ベンチャーキャピタル株式会社代表取締役社長 三浦淳一氏の4名をパネリストとしてパネル討論会を行いました。（モデレータ：会計専門職大学院教授 蟹江 章）

鈴木氏と工藤氏は、それぞれの会社が重視するステークホルダーに対して、内部監査がどのような形でその利益を保護しているのか、また、ステークホルダーからの期待をどのように受け止めているのかについて説明されました。天羽氏は、市場開設者の立場から、会社が優れたパフォーマンスをあげるために内部監査に期待するところについて述べられました。三浦氏は、投資家の立場から、投資先企業の経営の健全性やパフォーマンスの確保に対

する内部監査への役割期待について述べられました。

鈴木氏による内部監査の実践的な解説を受ける形で行われたパネル討論会では、内部監査の主体とそれを利用する市場及び投資家という異なる立場からの率直な議論によって、およそ150名の参加者は、内部監査の役割や限界などについて深い理解を得ることができたものと思います。

会計専門職大学院では、今後も地域社会への研究成果の発信のために、引き続きこのようなセミナーなどを開催していきます。

（経済学研究科・経済学部）



「内部監査入門」について講演する
北海道旅客鉄道（株）監査部 鈴木グループリーダー



パネル討論会の様子

薬学研究院で第19回ファーマサイエンスフォーラム 「バイオ医薬の現状と未来」を開催

7月25日（水）、薬学部臨床薬学講義室において、薬学研究院附属創薬科学研究教育センターが中心となり、日本薬学会北海道支部、探索医療教育研究センター、病院高度先進医療支援センターの協力を得て、バイオ医薬の先端シンポジウムを開催しました。

近年、従来の医薬品では対応できない難治性疾患に対しては、抗体医薬等に代表されるバイオ医薬の登場により大きく治療法が変わり、劇的に効果を上げるケースが出てきています。創薬科学研究教育センターは、文部科学省「最先端研究基盤事業 化合物ライブラリー拠点」の全国6拠点のひとつとして、低分子創薬を進めると同時に、抗体医薬や核酸医薬等のバイオ医薬の開発にも取り組み、低分子と高分子の医薬の両面から有力薬剤を生み出し、医療への橋渡し研究及び次世代創薬研究者の人材育成を推進することを目指しています。そこで、バイオ医薬分野で注目されている最先端研究者6名を

招聘し、“バイオ医薬の現状と未来”をテーマに、毎年、薬学研究院で開催されているファーマサイエンスフォーラムとして、シンポジウムを開催しました。

はじめに、創薬科学研究教育センター長の前仲勝実教授の挨拶の後、抗体医薬をテーマとして、津本浩平教授（東京大学医科学研究所）、阿部義人准教授（九州大学大学院薬学研究院）、森岡弘志教授（熊本大学大学院生命科学部（薬学系））にお話をいただきました。抗体医薬開発における物理化学的な分析技術biophysical chemistryを中心に、最先端の問題点とその解決方法について説明が行われ、これほどまとまった形で講演を聴く機会は大変貴重であり、参加者に好評でした。

次に、核酸医薬をテーマとして、南川典昭教授（徳島大学薬学部）、小比賀聡教授（大阪大学大学院薬学研究科）にお話をいただきました。新規の核酸医薬品開発技術と実際の薬剤開発の流れ

と問題点について、それぞれの先生の視点から説明をいただき、活発な議論が行われました。

続いて全体を総括する形で、熊谷泉教授（東北大学大学院工学研究科）にお話をいただきました。バイオ医薬の歴史と現状をわかりやすく解説していただき、将来に向けたバイオ医薬品の展望について、抗体医薬を中心に具体的な未来像を示されました。

最後に、薬学研究院長 松田 彰教授の挨拶がありました。

創薬科学研究教育センターは、低分子及び高分子（バイオ）医薬開発に関する創薬シンポジウムを今後も定期的に開催し、探索医療教育研究センター、病院高度先進医療支援センター等の本学の他部局と連携を進めながら、北海道の創薬拠点として大きく発展し、社会に貢献していきたいと願っています。

（薬学研究院・薬学部）

発表者題目一覧（敬称略）

- 前仲 勝実：開会の挨拶
- 津本 浩平：抗原抗体相互作用の熱力学的解析：次世代創薬を目指して
- 阿部 義人：バイオ医薬品創製を目指したプロテインエンジニアリング
- 森岡 弘志：低分子化合物を識別する抗体の分子認識メカニズム
- 南川 典昭：化学修飾DNAを利用するRNAi創薬の新展開
- 小比賀 聡：架橋型核酸の開発と創薬への展開
- 熊谷 泉：次世代バイオ医薬開発への期待
- 松田 彰：閉会の挨拶



東京大学 津本先生



九州大学 阿部先生



熊本大学 森岡先生



徳島大学 南川先生



大阪大学 小比賀先生



東北大学 熊谷先生



松田薬学研究院長

農学研究院で平成24年度第1回FD研修会を開催



会場の様子

6月25日(月)午後3時から6時まで、農学研究院総合研究棟多目的室W109において、平成24年度第1回FD(ファカルティ・ディベロップメント)企画「国際誌への投稿者のためのセミナー」を開催し、計88名(うち教員30名、研究員9名、博士学生22名、修士学生19名、学部生2名、その他6名)が参加しました。

今回の研修内容は、英語論文を執筆し、投稿、審査を経て受理されるまでの過程を概説し、ノウハウを含めた情報を共有しようとするものです。具体的には、Springer Japanの代表取締役

社長及び当社とパートナー契約をしている研究者3名から情報提供(文献検索サイト紹介、論文投稿の状況解説、科学論文の審査・コメント対応の実際、論文の構成と執筆にあたってのヒントと秘訣など)を受け、逐次、質疑が行われました。

農学分野においては本学からの論文情報発信はかなりランキングが高く(2011年は京都大学、東京大学に次ぐ第3位)、農学研究院からの248報はケンブリッジ大学やハーバード大学(各々216及び212報)をしのいでいます。この点からも農学研究院はかなり

のポテンシャルを有していることがわかりますが、さらなる飛躍を遂げていただきたいと講演後に講師陣から激励をいただきました。

また、今回大変お世話になったSpringer Japanが、この種の講演会を大学の部局単位で実施したのは本研究院が日本で初めてであり、今後発展形として「英文校正の実際」といったセミナーなどを考えてみたいとのことでした。

(農学院・農学研究院・農学部)

獣医学研究科で「安全講習会」を開催

獣医学研究科では、7月9日(月)に教職員及び学生を対象とした安全講習会を開催し、約80名が参加しました。

講習会前半では、本研究科の実際の事故事例を交えながら、安全管理について再確認し、事故を未然に防ぐためにはどうしたら良いか考えるきっかけとなりました。

また後半では、札幌北消防署の消防隊員を講師としてお招きし、心肺蘇生

法やAED(自動体外式除細動器)の使用方法について説明いただいた後、参加者は消防隊員の指導の下、実際に心肺蘇生法やAEDの操作を体験し、普段触れることのないAEDを操作するという貴重な機会を得ることができました。

(獣医学研究科・獣医学部)



心肺蘇生法を行う様子

北海道大学納骨堂慰霊式を挙行

医学研究科及び歯学研究科では、8月1日（水）午前11時から北海道大学納骨堂（豊平区平岸）において、医学及び歯学研究のため尊い御遺体をささげられた御霊の御冥福をお祈りする慰霊式を執り行いました。

慰霊式には、佐伯 浩総長、玉木長良医学研究科長、鈴木邦明歯学研究科長ら25名が参列し、参列者全員による黙とう及び献花を行い、厳粛のうちに慰霊式が終了しました。



黙祷を捧げる参列者



献花をする佐伯総長

（医学研究科・医学部）

「平成24年度薬用植物園見学会」を開催

薬学部附属薬用植物園（園長：鈴木利治教授）では、7月7日（土）に一般市民、薬剤師、高校生、大学生、及び本学職員を対象とした「平成24年度薬用植物園見学会」を開催しました。

当薬用植物園は、昭和31年に大学の研究・教育用の施設として設置されたもので、北方系薬用植物（ダイオウ、ゲンチアナ、ホッカイトウキ、センキュ

ウなど）を含む数多くの薬用植物を栽培しています。薬用植物の蒐集、試作、及び主要薬用植物の育種栽培試験を主な業務としていますが、一般市民の方々にも薬用植物に親しんでいただくために、毎年見学会を企画しており、好評をいただいています。

当日は、札幌市内外から薬剤師21名を含む52名の方々にご参加いただきま

した。見学会は午前10時から約2時間行われ、薬学研究院 田中直伸助教が各薬用植物にまつわるエピソードやその薬効、医薬品と薬用植物との関係について説明しました。参加者は、熱心に説明内容のメモを取り、薬用植物を実際に手に取って観察したり、匂いをかいたりして体感されていました。参加者の方々から、「植物が薬のもとになることを知って驚いた」「植物の成分に興味を持った」「また来年も参加したい」というご意見をいただきました。

薬学部附属薬用植物園では、今後も一般市民の方々に園内を随時公開することにより、薬用植物に触れていただく機会を提供していきたいと考えています。最後に、今回の「薬用植物園見学会」の開催にあたり多大なご協力をいただきました。日本生薬学会北海道支部、日本薬剤師研修センター、並びに本学総合博物館の関係者の方々に感謝いたします。

（薬学研究院・薬学部）



ダイオウを観察する見学者

ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～

7月28日（土）、独立行政法人日本学術振興会の支援を受け、ひらめき☆ときめきサイエンス事業が実施されました。

ひらめき☆ときめきサイエンスは、小学校5・6年生、中学生、高校生を対象とし、研究機関で行っている最先端の科学研究費の研究成果について、直に見て、聞いて、ふれてもらうことにより、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムです。

次に、今回実施された3件のプログラムを紹介します。

ゼリーを軟骨に作り変えよう！～水で出来た未来材料「ゲル」～

理学部生物科学科（高分子機能学）では平成19年度から毎年、体験入学「ひらめき☆ときめきサイエンス」を実施しています。今年度は、7月28日（土）に理学部2号館学生実験室において、「ゼリーを軟骨に作り変えよう！～水で出来た未来材料「ゲル」～」と題し、中学生・高校生を対象に実施しました。科学研究費補助金「生命科学時代が求める新材料—ソフト&ウエットマテリアルの創製」（研究代表者：龔劍萍）による成果です。定員は20名でしたが、予想をはるかに上回る申込みがあり、当日は高校生8人、中学生18人、小学生2人の計28名が参加してくれました。

最初に科学研究費について取り上げ、日本の優れた研究や技術は科研費によって支えられていることを説明しました。次に、「ゲル」とは何か、ゲルの構造や作り方についての授業を

行った後、班に分かれてゲル作製を行いました。作ったゲルは、おむつ等に使われる超高吸水性ゲルと、本学科のソフト&ウエットマターの科学研究室が誇る、2重網目構造を持った世界最強のDNゲルの2種類です。4種類の試薬を測り取り、混ぜると固まる様子に、参加者は興味津々でした。

お昼は、理学部玄関前にて記念撮影の後、本学中央食堂にて昼食を取りました。「学校給食よりもおいしい！」と、大変好評でした。

午後は再び実験室に移動し、DNゲル合成の続きを行った後、自分で作った高吸水性ゲルやDNゲル、押すと色が変わる構造色ゲル、卵を落としても割れない（？）衝撃吸収ゲルなどに触れてもらいました。DNゲルは予想以上に強かったようで、壊そうと必死になっている姿は微笑ましいものでした。途中のクッキータイム（参加者と

の交流会）では、体験入学のテーマ「ゲル」にちなんで、巨大プリンを用意しました。最後に、参加者に「未来博士号」を授与し、解散となりました。

実験準備は非常に大変でしたが、参加者が夢中になって実験している様子や、熱心に質問する姿を見て、こんなに科学に興味を持ってくれたのなら頑張った甲斐があったと感じています。

なお当日の実験の様子は、本学のオープンコースウェアにて公開される予定です。

最後に、実施にあたりご支援をいただいた実施分担者の先生方、事務担当者の方々、また事前準備や当日の実験補助を担当してくれた大学生、大学院生の方々に、深くお礼申し上げます。

（理学院・理学研究院・理学部）



みんなでゲルを作っています



中央食堂で食事



クッキータイムでは巨大プリンを振る舞いました

北大農場で「体験！ベリー研究の最前線 “君も育種家になろう！”

7月28日（土）に「体験！ベリー研究の最前線 “君も育種家になろう！”～北大農場でベリーの品種改良に挑戦しよう！～」を開催しました。これは、科学研究費補助金「若手研究B：胚乳由来の3倍体育成法の確立とインプリント遺伝子の解析による胚乳分化機構の解明」、基盤研究C「胚乳の植物体再生系を利用した新規倍数性育種法の開発」（研究代表者：星野洋一郎）による成果をもとに、体験的なプログラムで大学の最先端の科学に触れてもらおうという企画です。北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場で行いました。

中学生を対象に募集し、当日は22名の参加がありました。開会式のあと、すぐに農場のフィールドに出て、まずは6種類以上のベリーに触れ、実際に食べながらそれぞれの特徴について学びました。北海道特産のハスカップにはさまざまな味のものがあり、野生のものの中には苦くて食べることができないものがあるなどを知り驚いていたようです。カシスやラズベリー、ブルーベリーなど、もぎたてを食べることは

良い経験になったのではないのでしょうか。ベリーにはスグリ科、ツツジ科、バラ科、スイカズラ科などさまざまな科に分類されることなどワークシート形式で勉強を進めていきました。食べ比べてみてわかる味の特徴など、実物を見て触れてそして味わう貴重な経験から学び得たことがあったと思います。

その後、ブラックベリーとラズベリーを実際に交配させる品種改良に挑戦しました。今年は異例に雨が少なく、また連日の暑さで花の状態が悪く、苦勞しながら花を見つけていきました。小さな花を扱う操作は難しいものですが、集中力を発揮して各自交配を行うことができました。この交配実験の結果は、2ヶ月ほど経った後に結実した果実を参加者に送り、実際にオリジナル品種を栽培してもらう計画です。

午後からはグループ分けを行い、「生きた花粉が伸びる様子をとらえよう」「果実の糖度、pHを調べてみよう」「パラフィン紙で交配袋を作ってみよう」というテーマの実験をローテーションで行いました。盛りだくさんの内容でしたが、積極的に実験に取り組む姿が見

られました。この日のことが科学の芽となって育ってくれば嬉しく思います。

最後のおやつタイムには、スタッフ手作りのラズベリーソース、ハスカップソースでアイスクリームを楽しみました。一日を振り返り、スタッフや新しく友達となった生徒同士で楽しい交流の時間となりました。最後に「未来博士号」を一人ひとりに手渡し、閉会となりました。研究の楽しさやおもしろさが伝わったでしょうか。

なお、実験に関する質問や栽培の仕方、交配した果実の生育具合など、ブログ形式で交流を続けています。

(<http://hoshiberry.exblog.jp/>)

最後に、本事業の開催には準備段階から支えてくれた事務職員の方々と研究室の学生メンバーの貢献が非常に大きかったことを記しておきたいと思います。参加してくれた皆さん、そしてスタッフのチームワークに感謝いたします。

(北方生物圏フィールド科学センター)



農場でハスカップなどさまざまなベリーの味比べ



ラズベリーとブラックベリーを交配してオリジナル品種作出に挑戦



顕微鏡を操作して花粉管が伸びる様子を観察

こんぶの森を育てよう！～ゆたかな海をこの手で～



昆布の観察



磯焼けの観察

北方生物圏フィールド科学センターでは、7月28日（土）に「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開催しました。これは、科学研究費補助金による研究「タンパク質プロファイリングによるコンブの環境ストレスマーカーの探索」（研究代表者：四ツ倉典滋）の成果をもとに、大学で取り組んでいる研究の一端に触れてもらうという児童・生徒へ向けた体験型プログラムです。今回は小学5・6年生を対象に、「こんぶの森を育てよう！～ゆたかな海をこの手で～」をテーマとして水圏ステーション忍路臨海実験所で実施しました。

当日の参加者は14名で、実験所の地元小樽を中心に、遠くは旭川からも集まりました。午前中は“コンブの森の役割と、その保全”について講義を行った後、前浜へ出てコンブの森とそのまわりに生育する海藻の観察を行いました。現在、小樽を含む北海道南西部日本海沿岸では磯焼けといわれる海の砂漠化が深刻ですが、参加者はほんのわずかに残されたコンブ群落を目の当たりにして、自分のイメージしていた豊かな森との違いに驚いた様子でした。一方で、コンブ群落に暮らすさまざま

な海産動物を観察し、一見砂漠のような海中においてもコンブの森が生命のゆりかごとしてはたっていることも実感していました。

昼食後は、午前中に採集した海藻の同定と押葉標本づくりを行いました。短時間の採集だったにもかかわらず、25種の海藻が同定され、参加者は真剣に細かい標本作製作業に取り組んでいました。次いで、“コンブの森の環境と、そこに見られる海藻類”について解説を行った後、実験所に保存されているコンブ類の培養株（今回は忍路産ワカメ）を混ぜ込んだ高分子ジェルを参加者各自が基質ブロックに塗布してそれを海中へ設置しました。この作業では、海の森づくりのために子供たち一人ひとりに手を動かしてもらうことにより、地道な藻場保全活動の一端を理解してもらうことができました。

終了式で“未来博士号”を受け取った小学生は朝よりも少し日焼けしてたくましく見えました。

プログラムの実施にあたり、準備段階から惜しみない協力をいただいた関係教職員及び学生諸氏に感謝いたします。

（北方生物圏フィールド科学センター）



海藻の採集



標本の作製

北大農場公開デー「ウインナーをつくってみよう」を開催



豚の生産についてのお話

北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場では、7月26日(木)に桑園地区の小学生と保護者を対象に北大農場公開デーを開催しました。

農場では農畜産物製造施設“アグリフードセンター”が昨年10月にポプラ並木横に新しく建てられ、ハム、ソーセージ、チーズなどの畜産製造やジャム、ジュースなどの農産製造に関する学生実習や研究を行っています。今回は、地域の親子を対象に食育の一環として、ウインナーソーセージ製造体験実習を企画し、8組18名の皆さんに参加していただきました。

製造に先立って担当職員は、原料である豚の生産について写真や絵が中心の資料を用いて小学生でも理解しやすいように説明しました。ふだん何気なく食べているお肉のありがたみを感じてもらえたことと思います。

実習の進め方、実習時の注意事項を説明した後、加工場に移動し手洗い等を済ませてウインナーソーセージの製

造に入りました。製造の手順はまず原料肉と香辛料を計量し、チョッパー(肉挽き機)で原料肉を挽肉状にします。カッターで挽肉と香辛料とを細切し混和したものを、スタッパー(充填機)でケーシング(腸などでできた練り肉を詰め込む包み)に充填し、手でひねり整形します。くん煙によって香りや保存性を付加させてからボイルし、さらにくん煙して完成です。担当職員による優しく丁寧な指導で難しい製造工程もスムーズに楽しくできたようです。

完成後に昼食を兼ねた試食会を行いました。今回作ったウインナーソーセージだけでなくボロニアソーセージ、ベーコンのほか、農場産の牛乳、バター、アイスクリームも賞味しました。どれも大変好評でしたが、とくに「牛乳がおいしくて学校の給食でも出てほしい」「牛乳嫌いの子どもがゴクゴク飲んでいた」という声を聞いてスタッフ一同とてもうれしく思いました。



原料肉を挽肉に



自分が作ったウインナーをお土産にしました

試食会後は、参加者各々が充填して整形したウインナーを持ち帰り用にするために真空パックの処理も体験しました。最後にアグリフードセンター内全体の見学を行った後、解散となりました。

予定時間を多少オーバーしてしまいましたが、有意義な体験になった様子で多くの参加者から「楽しかった」「おいしかった」という感想をいただきました。この日は小学校の夏休み初日でしたが、「自由研究にしました」という参加者もいました。

今回、原料の生産から製造までの過程を通して学んだことで、食に関する知識と食の大切さ、命の尊さを身につけてほしいと願っています。

(北方生物圏フィールド科学センター)

総合博物館でカルチャーナイト2012「チェンバロと星空の夕べ」を開催

カルチャーナイトとは、札幌の夏の一夜、公共施設などを夜間開放し、市民の方々に地域の文化を楽しんでいただくイベントです。総合博物館では、平成16年度から毎年カルチャーナイトに参加しています。今年は7月13日（金）に「チェンバロと星空の夕べ」を開催し、開館時間を夜9時まで延長して展示を公開しました。

当日は教職員と博物館ボランティア、学生、市民ボランティアなど総勢50名で運営に当たりました。ポプラチェンバロの紹介と演奏、4Dシアターでのオリジナル・プログラム「天かける単身赴任一織姫星と彦星」の上演を行いました。演奏会は開演後す

ぐに満席となり、4Dシアターも整理券がすぐに配布終了となりました。市民グループ「札幌星仲間」による屋外での「夏の星座の観望会」も予定していましたが、あいにくの曇り空のため、残念ながら実施することができませんでした。

毎年たくさんの方にご来館いただくカルチャーナイトですが、館内を巡回する教員が来館者に展示解説をする場面も見られ、今年も閉館間際まで来館者が絶えず、どのプログラムも様々な年代の方々に楽しんでいただきました。

（総合博物館）



チェンバロ演奏の様子



教員による展示解説

北海道大学病院で「第47回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を実施

北海道大学病院では、8月1日（水）、「第47回ふれあいコンサート七夕の夕べ」を開催しました。患者サービス推進委員会が中心となって色々な企画をしていますが、今年もYOSAKOIソーラン演舞、ボランティアの方々が加わった縁日コーナーと盛りだくさんの内容となりました。

会場のアメニティホールをはじめ、病院の各所に笹飾りが飾られ「早く退院できますように」などの患者さんの願いが込められた短冊が涼やかな雰囲気を出し出す中、コンサートは、浴衣

姿の司会者のもと、福田 諭病院長の挨拶で開幕しました。

YOSAKOIソーラン演舞では、北海道大学“縁”が若々しい元気な踊りを披露すれば、平岸天神は風格の漂う円熟味のある演舞を披露し、夏の夜を熱くしました。

演舞の後には、札幌大谷大学～そば☆クラ～によるピアノとクラリネットの演奏と北海道大学交響楽団による四重奏が奏でられ、先ほどの熱気とはうって変わり、清涼な雰囲気が会場を包みました。

最後に、川畑いづみ看護部長の挨拶で、北海道大学病院の夏の風物詩である「七夕の夕べ」は幕を閉じました。

（北海道大学病院）



花束を受け取る北大“縁”代表



平岸天神のYOSAKOI演舞



札幌大谷大学～そば☆クラ～の演奏



北大交響楽団の演奏

メディア・コミュニケーション研究院公開講座「広東語で知る香港文化」が終了

メディア・コミュニケーション研究院では、平成24年度公開講座「広東語で知る香港文化」を、6月18日から7月9日まで毎週月曜日、全4回にわたり実施しました。

本講座では、世界に約8,000万人の話者がいると言われている広東語をひとつの大きな柱として、香港の言語事情、香港映画、香港人のアイデンティティー、香港の中国本土との関係など、香港の文化・社会に関するさまざまなことが取り上げられました。

講義では積極的に発言するほか、講義終了後には熱心に講師に質問する受講生の姿が見られました。香港から多

くの観光客が訪れるここ北海道で、本講座のテーマに対する関心の高さがうかがえました。

講座の最終日には、3回以上出席した34名の受講生が担当講師から修了証



講義風景

書を手渡され、本講座は盛況のうちに無事終了することができました。

(国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院)



受講生への修了証書授与

メディア・コミュニケーション研究院が、ソウル大学日本研究所の教授引率現地研修に協力

7月11日(水)～19日(木)、ソウル大学日本研究所(所長:韓榮恵)の教授引率現地研修が北海道で行われました。本研修は、ソウル大学日本研究所の次世代研究者プログラムの一環として実施され、教員の引率の下、ソウル大学大学院の修士課程学生を対象に、日本の各地を訪問して研修を行うプログラムです。今回は独立行政法人国際交流基金の助成を受けて、10名の大学院生が参加しました。これまで東京や沖縄等で行われてきましたが、今年は本学が協力することもあり、北海道で行われる運びとなりました。

7月12日(木)・13日(金)は、メディア・コミュニケーション研究院との共催で、ファカルティハウス「エンレイソウ」第1会議室において、「第1回ソウル大学-北海道大学日韓合同セミナー」を開催しました。ここでは本学から4名の教員が特別講義を行いました。12日は経済学研究科の内藤隆夫准教授と韓載香准教授が、それぞれ「明治前期の北海道開拓」と「北海道の地域経済:日本社会における役割とブランドとしての〈北海道〉」と題して講

義を行いました。翌13日はメディア・コミュニケーション研究院の堀田真紀子准教授の研究グループが北海道のアートと地域振興について、行政、研究者、民間の視点から講義し、アイヌ・先住民研究センターの北原次郎太准教授がアイヌ民族の生活と文化について講義しました。

「日韓合同セミナー」には、国際広報メディア・観光学院及び文学研究科の大学院生も参加し、ソウル大学の学生らとともに議論し交流を深めました。なお、開会式にあたっては、メディア・コミュニケーション研究院の宮下雅年研究院長が本学を代表して挨拶を行いました。

14日(土)以降は、北海道開拓記念館、白老のアイヌ民族博物館、知床世界遺産センターを訪問して現地実習を行い、18日(水)は網走にも足を運び、博物館網走監獄などを体験しました。19日(木)、ソウル大学一行は9日間の研修を終え帰途につきました。

研修を終えて、ソウル大学日本研究所から、今回の研修は非常に実りあるものであったと伝えられました。また、

これまで東京に偏っていた研修を北海道で行うことで、活動領域を拡大することができ、特に北海道大学が受け皿となることで、深みのある講演と積極的な討論が行われ、さらに現地踏査までバランスのある研修になったと評価されました。参加した日本研究を主な専門とする大学院生からは、これまでイメージとして存在した日本とは異なる側面を体験することができ、視野を広げ問題意識を深化させることができたことと成果の言葉が寄せられました。

今回の研修を契機として、ソウル大学日本研究所と今後多方面にわたる交流や協力が期待されます。

(国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院)



記念品の交換(ソウル大学日本研究所 韓所長と宮下メディア・コミュニケーション研究院長(右))

大学間交流協定校 韓国釜慶大学の練習船「カヤ号」が函館寄港、水産科学研究院で日韓教育交流事業を実施

7月12日（木）から17日（火）までの間、実習生約110名を乗せて、韓国釜慶大学の練習船「カヤ号」が約8年ぶりに函館港に寄港しました。トロール実習や海洋観測を終え、中国青島寄港後の入港でした。入港後、本学水産科学研究院関係者・学生への船内見学会、乗船実習生の函館キャンパス訪問、釜慶大学の教員による特別講義などが行われました。

本学局と釜慶大学水産科学大学では、2001年から10年間継続した日韓拠点大学交流事業FISCUPの成果をさらに発展させるため、今年度から教育面での緊密な交流を図る日韓教育交流事業（JKEEP）を立ち上げました。今回のイベントはその一環として行われたものです。

キャンパス訪問では、50名以上の実習生が函館キャンパスを訪れました。

水産科学研究院 今野久仁彦教授による大学・学部紹介の後、水産科学院・学部在籍の韓国からの留学生や韓国への留学経験学生などが中心になって、先端環境制御実験棟や資源化学研究棟、水産科学館などを案内し、そこで推進されている先端的研究教育内容などを説明しました。午後には、釜慶大学水産科学大学の5名の教員による特別講義を函館キャンパスで行いました。漁業、海洋バイオテクノロジー、水産食品の3テーマに分かれ、学部生、大学院生、教員が韓国の水産事情や先端研究について学び、熱心な討論が繰り広げられました。次は9月に水産科学研究院の教員が釜慶大学を訪問し、先方の大学院などの授業を担当する計画になっています。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



釜慶大学の教員による特別講義



練習船「カヤ号」出港の様子



キャンパスツアーの様子（先端環境制御実験棟）



キャンパスツアーの様子（資源化学研究棟）

水産学部が函館港まつり「ワッショイはこだて」に参加

8月3日（金）、水産学部は今年も函館港まつり「ワッショイはこだて」のパレード（堀川・五稜郭コース）に地域連携活動の一環として参加しました。函館最大のイベントである函館港まつりは、毎年8月1日から5日までの5日間にわたって開催されます。特に今年は市制施行90周年・開港153周年という節目の年にあたり、花火大会やパレード、露店などで函館中がにぎわいを見せていました。



パレードの様子



元気いっぱいの学生

水産学部がパレードに参加したこの日は天候にも恵まれ、桜井泰憲副研究院長や川上 豊事務長をはじめとする教職員や学生約150名が、鮮やかな水色のハッピーやTシャツ、様々に趣向を凝らした仮装を身にまとい、函館名物の「いか踊り」を踊りながら元気よく街を練り歩きました。沿道には大勢の観客が詰めかけ、盛んな拍手や声援が飛び交う中「北海道大学水産学部」の横断幕や旗を高々と掲げ、本学部を十分にアピールしました。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)



横断幕を掲げ水産学部をアピール



参加した多くの教職員・学生

「函館ペリーボート競漕」に水産学部から5チームが参加



チーム海女さん



事務職員チーム



週末飲み会ももいろクローバー食 I

函館港まつり協賛東北支援「函館ペリーボート競漕」が8月5日(日)に函館港若松南埠頭で開かれ、水産学部からは5チームが参加し、熱戦を繰り広げました。

幕末に箱館奉行が小舟でペリー艦隊に向かった史実にちなんだこのレースは、6人のこぎ手とかじ取り、ドラ担当が乗り組み、折り返しのある150mのコースをトーナメント形式で競います。今回は全49チームが参加する中、一般の部では惜しくも入賞を逃しまし

たが、女子の部では「チーム海女さん」が優勝し、昨年に引き続き2連覇を果たしました。また、仮装パフォーマンス部門では学生達がアイドルに扮しダンスを披露した「週末飲み会ももいろクローバー食 I」が3位に入賞、特別審査賞には背中が大きく開いたスーツを着用し、初出場にもかかわらず1回戦を突破した事務職員チームが選ばれました。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)



函館留学生チーム



Marine Rowing

附属図書館・大学文書館共催展示 「“エルムの森”の青春—北大生の群像 1876~1949」を開催

8月1日（水）から、附属図書館本館メディアコートにおいて、附属図書館・大学文書館共催企画展示「“エルムの森”の青春—北大生の群像 1876~1949」を開始しました。

1876年に札幌農学校が開校して以来、北大は136年の歩みを続けてきました。また、時計台キャンパスから、この“エルムの森”キャンパスに移転して109年になります。この間、二十万人にも及ぶ人々が、それぞれの時代に、思い思いの学生生活をキャンパスに刻んできました。

附属図書館と大学文書館が所蔵する図書や資料に、北大生はしっかりと足跡を刻みつけてきました。……W.S.クラークの講義を記録した第1期生佐藤昌介の受講ノート、学生の弁論・演説

団体「開識社」の記録、修学旅行記、有島武郎の身体検査表、留学生の入学文書、角帽、女性の在学記録、スキー部のペナント、出征学徒の日の丸寄せ書き、大学祭プログラム……。これらの展示資料を通して、1876年札幌農学校開校から1949年新制北海道大学成立までの、北大生の群像をたどります。

併せて、学生時代を回想した文章をパネルにし、彼らが青春時代を過ごしたキャンパスへ寄せる思いに耳を傾けたいと思います。

展示は、5部構成です。

- I. 札幌農学校生あらわる
- II. 時計台キャンパスから飛び立つ
- III. “エルムの森”キャンパスを舞台に
- IV. Universityへの道

V. 北大生の戦争、そして新しい時代へ

北大生と、北大生を目指す方々と、北大生だった方々と、北大生を見守り続ける方々に展示をご覧いただき、それぞれの時代の北大生の青春と、展示をご覧になる皆様の現在・過去・未来の学生生活・青春時代を重ね合わせていただければと思います。

展示時間は平日の9:00~16:30です。展示期間は11月30日（金）までです。ぜひ、ご一覧下さい。

（附属図書館・大学文書館）



展示ポスター



展示風景

附属図書館・大学文書館共催展示「“台湾は天然の恩恵裕なる” —植民地台湾を駆けた北大卒業生たち」第Ⅰ期を開催

8月3日（金）から、附属図書館本館玄関ロビーにおいて、附属図書館・大学文書館共催企画展示「“台湾は天然の恩恵裕なる”—植民地台湾を駆けた北大卒業生たち」第Ⅰ期を開始しました。

戦前期、多くの北大卒業生が台湾に渡り、台湾総督府官吏、農業技師、研究者、企業経営者などそれぞれの立場から、日本の台湾植民地統治を下支えする役割を果たしました。

また、彼らは、生まれ故郷である日本各地や学生時代を過ごした北海道と全く異なる台湾の風土に、一様に強い関心を抱いています。芳賀鋤五郎（札幌農学校第20期生）が台湾産果樹について述べた“台湾は天然の恩恵裕なる

……”の言は、彼らの学問的求知心を示しています。

こうした台湾への学問的関心から生まれた知識、北大で学んだ学術・技術は、その普遍性ゆえに、台湾の植民地統治という目的の政治性や時代性から乖離して、台湾の産業・社会・文化の展開に大きな影響を与えていくという一面も見られました。

この展示では、植民地台湾を駆けた北大卒業生たちの人物と活動を3期に分けて紹介し、彼らの担った歴史的役割の多面性を考えます。

今回は、その第Ⅰ期「統治—台湾総督府の実務を担って」です。1895年から1900年代半ばに渡り、主に台湾総督府の官吏・技師として、台湾植民地

統治の殖産・農政実務を担当した北大卒業生を取り上げ、彼らの在学時と渡台後の資料を展示し、その事跡を追います。

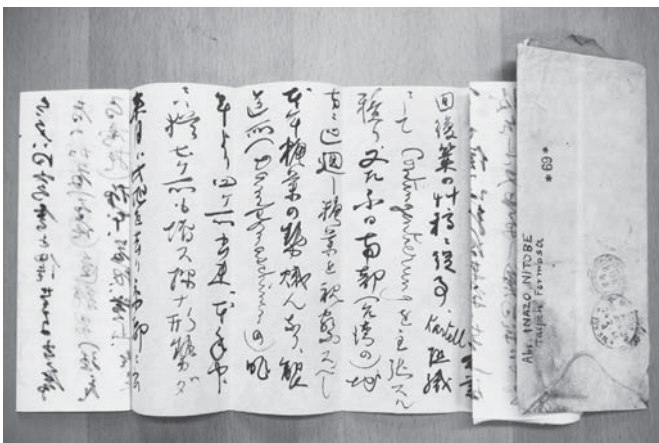
展示は4部構成です。

- I. 台湾の領有を担って
- II. 台湾の糖務を担って
- III. 台湾の農務を担って
- IV. 台湾総督府と札幌農学校卒業生

展示期間は11月30日（金）までです。附属図書館本館の開館時間にご覧いただけます。

この展示を通じ、北海道大学の歴史と台湾に関心を向けていただければと思います。

（附属図書館・大学文書館）



陳列資料（新渡戸稲造書簡，1904年台北）



展示風景

大学文書館で高松正信旧蔵資料を受贈

8月2日(木)、大学文書館では、札幌農学校第24期生高松正信旧蔵資料205点を、ご令息の高松信夫氏よりご寄贈いただきました。

高松正信(1884-1974)は、麻生中学校卒業後、1901年札幌農学校予修科に入学、1903年本科へ進学して畜産学を専攻しました。1907年には卒業論文「牛酪鑑定論」を提出し、札幌農学校第24期生(農学校最後の卒業組)として卒業しました。卒業後、大学に昇格した母校で助手となり、ドイツ留学を経て助教授・教授と昇任しました。大学では馬学を専門とする畜産学第二講座を担当して、馬匹改良に関する研究

を行ない、輸入馬の改良による日本に適した馬の作出に携わりました。学生主事・学生部長や評議員も務め、1947年に退職されました。

この度、受贈した資料は、(1)写真202点、(2)文書3点です。(1)は明治後期～戦前期にかけての古写真、1955年頃のキャンパス写真などです。畜産学教室員、学生・卒業生の肖像・群像、カーライル研究会、札幌農学校遊戯会優勝記念、文武会体育系の優勝記念、恵迪寮察などの写真で、いずれも北大の歴史を物語る逸品です。(2)には、1937年第4代総長を決める選挙の際の手元文書があり、各

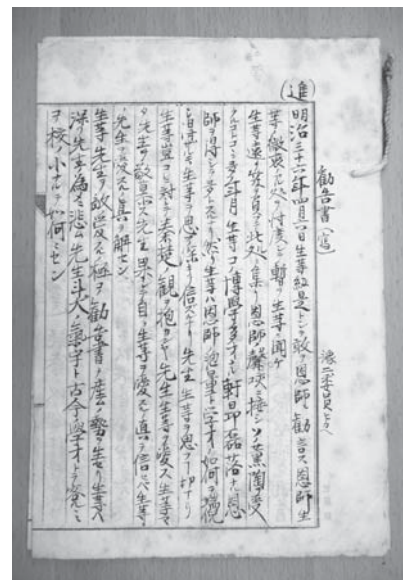
候補者の投票数が書き込まれています。さらに、1903年4月6日、札幌農学校予修科生徒が同盟して予科教官の辞職勧告をした際の「辞職勧告書」の筆写文書があります。これまで生徒の回想でしかその内容を知ることができなかった歴史的出来事が、この筆写文書により初めて明らかになります。

今後、大学文書館では、受贈資料を整理し、大学沿革史資料として保管・活用してまいります。

(大学文書館)



畜産学科卒業生送別記念(1908年7月、農場にて)



札幌農学校予修科生徒による「勸告書」(1903年4月)

大学文書館で戦後の学生在学資料を受贈

7月17日(火)、大学文書館では、日下大器氏(農学部農業生物学科1962年卒業)より、1950年代後半～1960年代の学生の在学に関連する資料14点を寄贈いただきました。

日下大器氏は1958年北海道大学に入学、農学部に進学して植物病理学を専攻されました。卒業後、製薬会社に就職し、1972年には「新抗生物質アリス

テロマイシンの発見ならびにその応用に関する研究」で農学博士の学位を取得されています。現在は、一般社団法人北海道大学関西エルク会代表理事を務められているほか、以前からご夫妻でスリランカの紹介と教育支援に取り組まれています。

ご寄贈いただいた資料は、入学許可書、教養部の学修簿、授業料領収証書、

体育会の入会案内、教養部自治会の挨拶文、1958年入学教養部理類12組文芸集『アゴラ』などです。

戦後期の学生の在学資料は、ご本人にとっては日常的で身近なものであるため、歴史的な価値を意識されにくい場合が多く、案外、残りづらい資料です。しかし、例えば、この度ご寄贈いただいた授業料領収証書は、当時の授

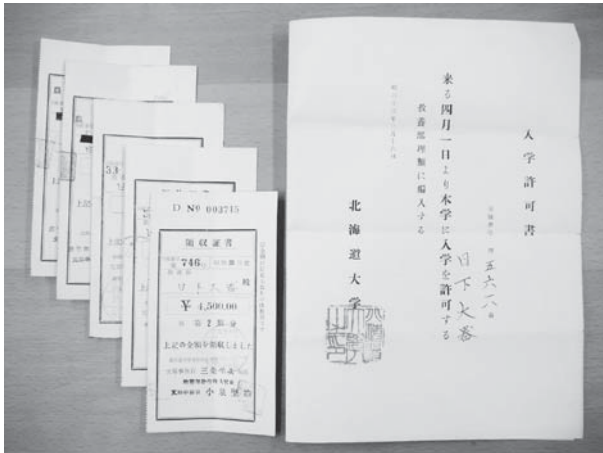
業料納付方法を目に見える形で示す歴史的資料です。振り込みによる納付方法が一般化した現在にはない、対面で学生と大学職員が遣り取りする様子を彷彿とさせます。体育会入会案内からは当時の学生文化の雰囲気垣間見ることが

ことができます。クラス文芸誌には、現在とは異なる学生と教員の関係や、当時の学生の社会観・大学観があらわられています。

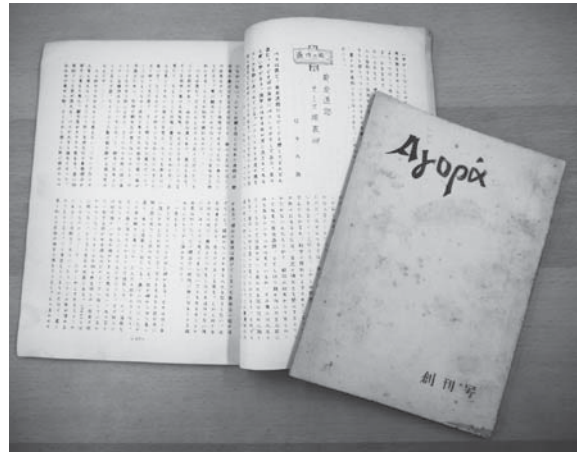
大学文書館では、受贈資料を大切に保管し、一時代の大学と学生の様子を

示す資料として、展示等で利用・紹介してまいります。また、今後も戦後の大学・学生関係資料について積極的な収集を行ってまいります。

(大学文書館)



入学許可書（1958年3月）と授業料領収証書（1958-60年）



『アゴラ』創刊号・第2号（1959年）

大学文書館で資料見学学習会を開催

8月6日（月）、大学文書館では、藤女子大学の図書館司書課程の集中講義「資料特論」の一環として、附属図書館大会議室において、資料見学学習会を行いました。当日は、講師の小川千代子氏（国際資料研究所代表・記録管理学会副会長）、藤女子大学 下田尊久准教授（記録管理学会理事）の引率により、藤女子大学学生10名が参加しました。

資料見学学習会では、まず、①公文書管理法と国立大学法人について、②大学文書館の業務内容と資料の収集・整理・保存・調査研究・利用につい

て、館員がレクチャーを行いました。参加学生には、文書類（札幌農学校時代の文書、現在の大学公文書）、沿革資料（旧工学部鉱山学科実習報文、農場の牛乳瓶）、個人資料（卒業生の書簡、学生写真、学位記、半澤式納豆のラベル）などを実際に手にとって見てもらいました。

その後、活用の一実例として、附属図書館との共催展示（1）「“エルムの森”の青春—北大生の群像 1876～1949」（会場：附属図書館メディアコート）、（2）「“台湾は天然の恩恵裕なる”—植民地台湾を駆けた北大卒業生たち

第I期統治」（会場：附属図書館正面玄関ロビー）の見学会を行いました。

最後には、藤女子大学学生の皆さんから、大学の歴史を語る資料には様々な形態・種類があること、歴史的資料の重要性を実感したなどとの感想をいただきました。

大学文書館では、今後もアーカイヴズ関連の仕事を目指し、また携わる方々に、歴史的資料の収集・整理・保存・利用の重要性を実際に見ていただけるような機会を提供してまいります。

(大学文書館)



学習会風景



見学会風景

■お知らせ

被扶養者の要件の確認

「被扶養者の要件の確認」を本年9月中に行います。

「被扶養者の要件の確認」は、「国共法施行規則（組合員証の検認等）第92条第1項 組合は、毎年、財務大臣の定めるところにより、組合員証の検認又は更新をしなければならない。」より、毎年が削除され、読み替えられたものです。（施行年月日平成22年4月1日）

また、「被扶養者の要件の確認」は組合員証（被扶養者の認定があるもの）、遠隔地被扶養者証又は船員組合員被扶養者証の交付を行った組合員に対して行います。

ついては、被扶養者申告書と認定されている被扶養者の認定条件に必要な添付書類を提出願います。

なお、被扶養者申告書に現在使用中の組合員証等の添付は不要です。

また、「被扶養者の要件の確認」の詳細は、各学部等の共済事務担当にお問い合わせください。

（文部科学省共済組合北海道大学支部）

■同窓会との交流

北海道大学新潟同窓会総会

7月21日（土）、恒例の新潟同窓会総会が長江信濃川の船上で開催されました。今年も観光船「アナスタシア号」によるクルージングでの総会となりました。

数年前より栗原道平さん（経S54卒）のご厚意により、この形式で行われています。今年は大学から上田一郎理事・副学長が出席し、総勢38名の参加となりました。新潟同窓会の総会に理

事が出席するのは初めてのことで、参加者は大学の近況を直に聞くことができ、大変喜んでいました。

船上でのパーティー形式ながら、企画として口演（講演にあらず）もあり、大平俊治氏（工S57卒）の“酒造りの苦勞”話に、よく冷えた彼自慢の日本酒「緑川」をいただきながら耳を傾けました。また、佐渡の坂田金正先生（獣S30卒）の「トキ再生プログラム」の

ご紹介も印象的でした。老若男女大いに語るも時間切れとなり、船上での「都ぞ弥生」は叶わず、着岸後、河畔での大合唱となりました。柳都新潟の夜、川風が心地よく頬を撫でた一日となりました。

（総務企画部広報課）



船上の上田理事・副学長（右奥）と坂田先生（左奥）ほか

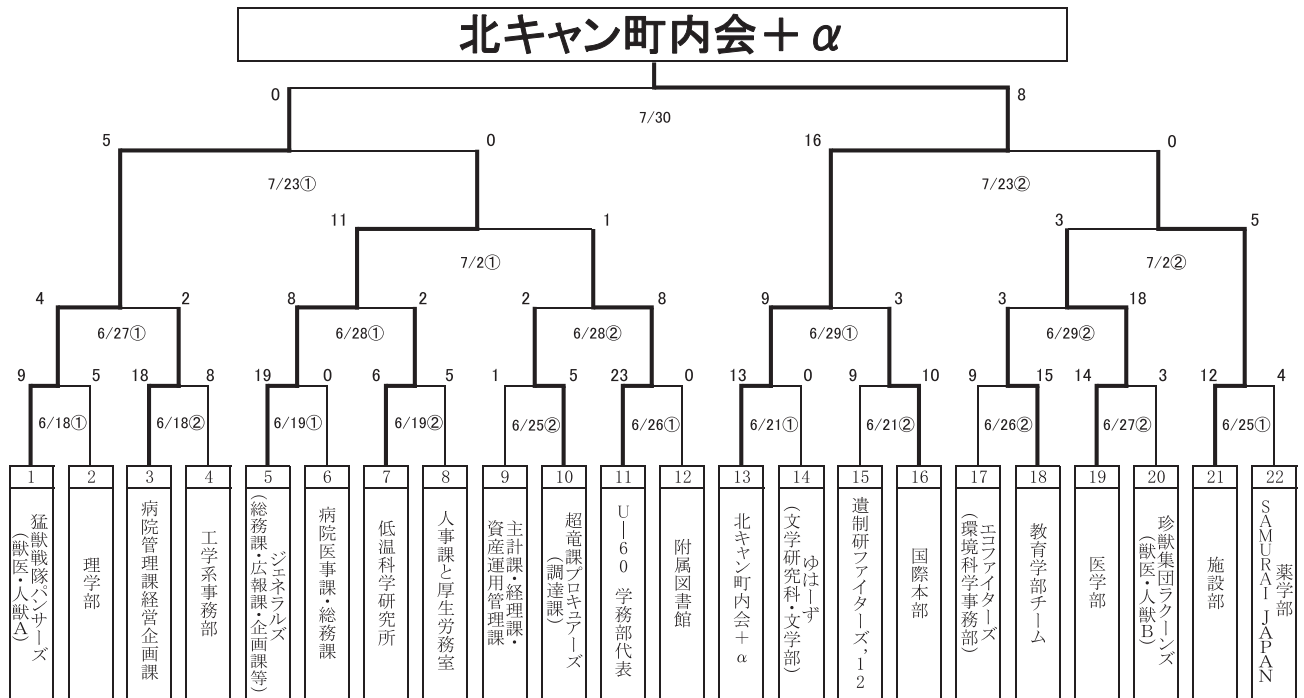
レクリエーション

学内教職員ソフトボール大会の開催

6月18日（月）から7月30日（月）の約1ヶ月半にわたり、学内教職員ソフトボール大会を本学B球場で開催しました。参加22チーム・約400名の選手により、連日熱戦が繰り広げられました。選手のみならず、応援の方々のたくさんの歓声があふれる中、見事、「北キャン町内会+α」チームが初の栄冠を勝ち取りました。

なお、対戦結果は以下のとおりです。

(全北大野球部, Re-birth)



優勝した「北キャン町内会+α」チーム

平成24年度学内職員バドミントン大会（個人戦）の開催

平成24年度学内職員バドミントン大会（個人戦）を、7月9日（月）から20日（金）まで、第2体育館において開催しました。大会には総勢113名が参加し、熱戦が繰り広げられました。

試合結果は次のとおりです。

（北大職員バドミントン部）

平成24年度学内職員バドミントン大会（個人戦） 対戦表

◆ Aクラス

Aブロック

				1	2	3	順位
				遠藤 幸夫	高崎 峻介	森 章一	
NO	氏名	所属	HC	田川 諭	辻 芳朗	小野 数也	
1	遠藤 幸夫	医学部	13		○	○	1
	田川 諭	事務局			21-20	21-18	
2	高崎 峻介	医学部	7	×		○	2
	辻 芳朗	調達課		20-21		21-15	
3	森 章一	低温科学研究所	5	×	×		3
	小野 数也	低温科学研究所		18-21	15-21		

Bブロック

				1	2	3	順位
				宮坂 光春	李 振風	岩渕良二郎	
NO	氏名	所属	HC	永井 潤	高藤 志帆	小田桐 誠	
1	宮坂 光春	外部資金戦略課	10		○	×	棄権
	永井 潤	医学部			21-15	棄権	
2	李 振風	電子科学研究所	7	×		○	1
	高藤 志帆	電子科学研究所		15-21		21-12	
3	岩渕良二郎	財務部経理課	5	○	×		2
	小田桐 誠	工学系事務部経理課		不戦勝	12-21		

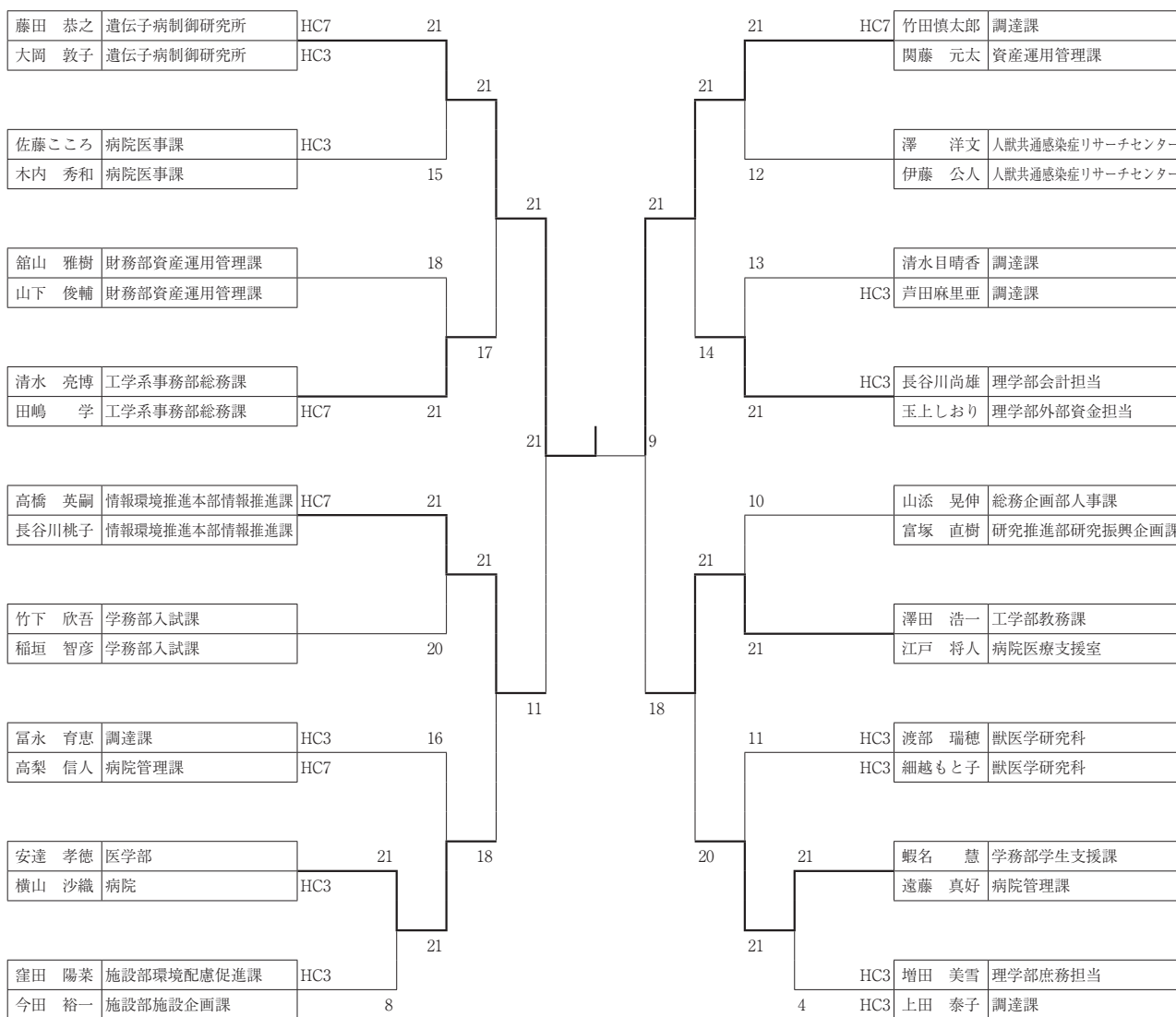
Cブロック

				1	2	3	順位
				早乙女一徳	柴田 仁	中鉢 健太	
NO	氏名	所属	HC	飯田 純二	藤田 和之	森 雄司	
1	早乙女一徳	施設部施設整備課	10		○	○	1
	飯田 純二	施設部施設企画課			21-20	21-17	
2	柴田 仁	低温科学研究所	10	×		×	3
	藤田 和之	低温科学研究所		20-21		18-21	
3	中鉢 健太	工学部	5	×	○		2
	森 雄司	工学部		17-21	21-18		

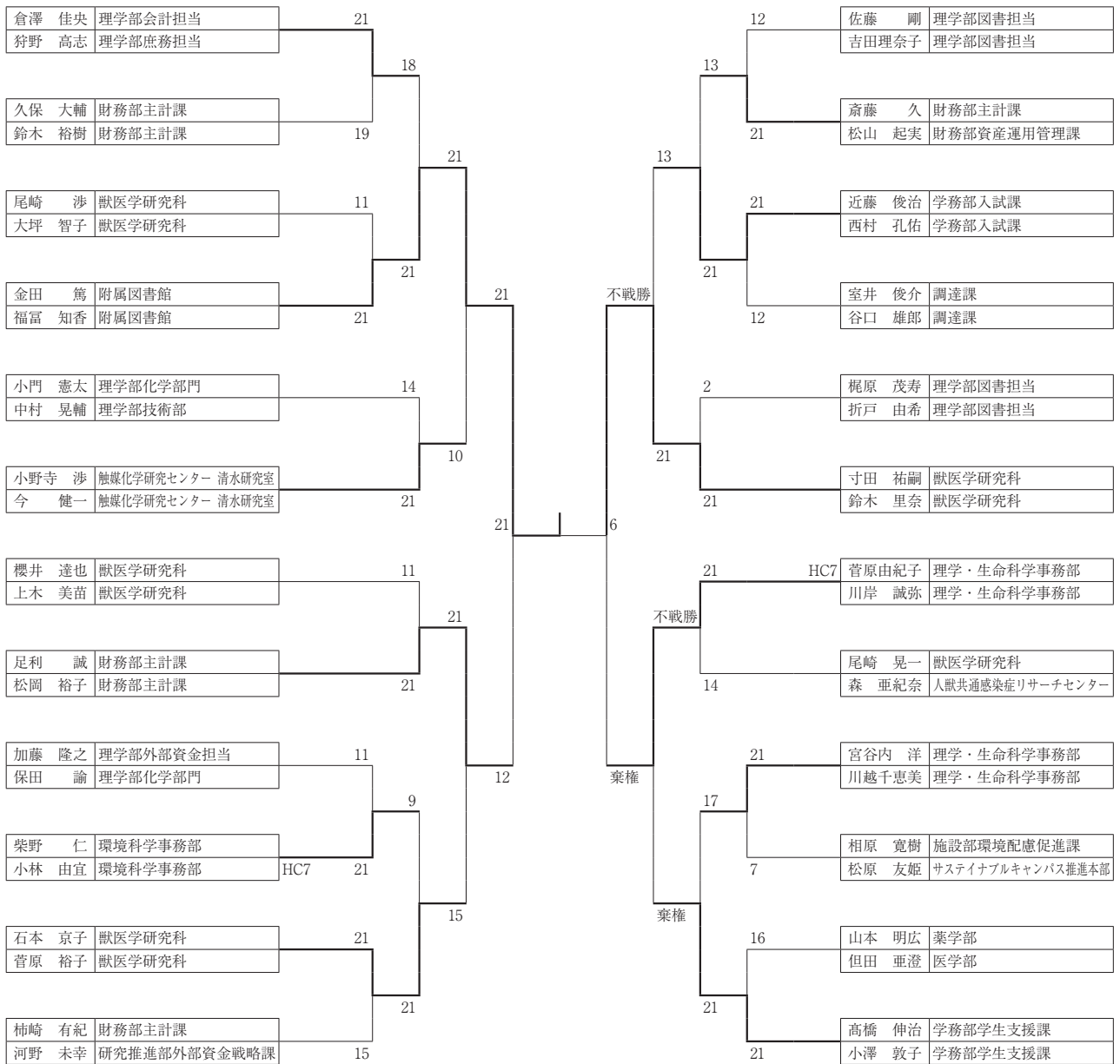


各クラスの優勝・準優勝ペア

◆ Bクラス



◆ Cクラス



◆ Dクラス



教職員テニス大会の開催

8月4日（土）に、工学部・農学部・低温科学研究所の各コートで職員硬式庭球同好会主催による学内ダブルス大会を開催しました。

参加者は総勢44名で、結果は次の通りです。

（職員硬式庭球同好会）

◆男子A級 8月4日（土） 会場：工学部コート

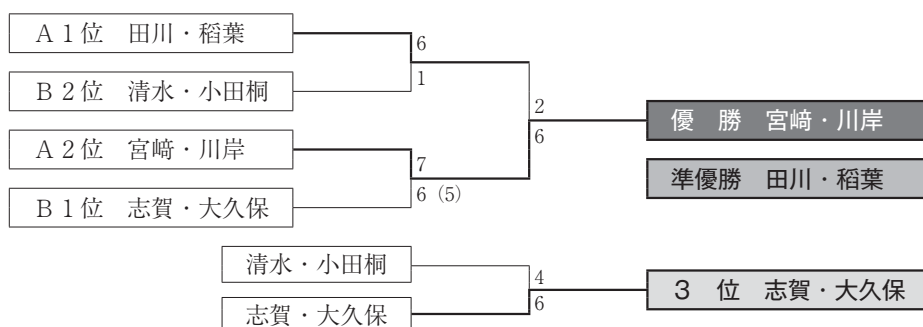
Aブロック

	宮崎 川岸	田川 稲葉	下山 新堀	中鉢 藤田	勝：負 順位
宮崎晃太郎（創） 川岸 誠弥（理）		4 - 6 ×	6 - 1 ○	6 - 2 ○	2 : 1 2
田川 諭（事） 稲葉 正思（事）	6 - 4 ○		6 - 2 ○	6 - 2 ○	3 : 0 1
下山 宏（低） 新堀 邦夫（低）	1 - 6 ×	2 - 6 ×		6 - 2 ○	1 : 2 3
中鉢 健太（工） 藤田 和之（低）	2 - 6 ×	2 - 6 ×	2 - 6 ×		0 : 4 4

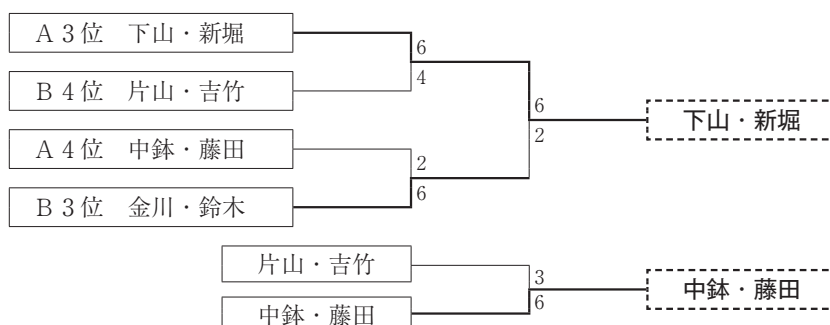
Bブロック

	金川 鈴木	志賀 大久保	清水 小田桐	片山 吉竹	勝：負 順位
金川 眞行（事） 鈴木 真也（産連）		2 - 6 ×	5 - 6 ×	6 - 3 ○	1 : 2 3
志賀 弘康（病） 大久保雅史（病）	6 - 2 ○		6 - 0 ○	6 - 2 ○	3 : 0 1
清水 泰貴（病） 小田桐 誠（工）	6 - 5 ○	0 - 6 ×		6 - 2 ○	2 : 1 2
片山 俊治（図） 吉竹 忍（図）	3 - 6 ×	2 - 6 ×	2 - 6 ×		0 : 3 4

☆1-2位トーナメント



☆3-4位トーナメント





男子A級 優勝・準優勝・3位

◆男子B・C級 8月4日(土) 会場：農学部ハードコート

	鈴木 山田	久保 吉本	黒井 東	内野 菊地	市川 柿崎	的野 高橋	勝：負 順位 (ゲーム数)
鈴木 敦生 (理) 山田 恭裕 (北方)		2 - 6 ×	6 - 4 ○	3 - 6 ×	5 - 6 ×	1 - 6 ×	1 : 4 5 (17-28)
久保 大輔 (事) 吉本 幸矩 (産連)	6 - 2 ○		6 - 0 ○	6 - 1 ○	6 - 2 ○	1 - 6 ×	4 : 1 2
黒井 和典 (理) 東 龍介 (理)	4 - 6 ×	0 - 6 ×		6 - 1 ○	2 - 6 ×	0 - 6 ×	1 : 4 6 (12-25)
内野 紀彦 (北方) 菊地 修平 (北方)	6 - 3 ○	1 - 6 ×	1 - 6 ×		6 - 2 ○	0 - 6 ×	2 : 3 3 (14-23)
市川 伸次 (北方) 柿崎 有紀 (事)	6 - 5 ○	2 - 6 ×	6 - 2 ○	2 - 6 ×		0 - 6 ×	2 : 3 4 (16-25)
的野 裕司 (事) 高橋 伸治 (事)	6 - 1 ○	6 - 1 ○	6 - 0 ○	6 - 0 ○	6 - 0 ○		5 : 0 1

優勝 的野・高橋

準優勝 久保・吉本

3位 内野・菊地

4位 市川・柿崎



男子B・C級 優勝・準優勝・3位

◆女子A級 8月4日(土) 会場：低温科学研究所コート

	小野田 三浦	山間 藤井	宮下 柏原	岡 平館	勝：負 順位
小野田実由紀(工) 三浦千穂(図)		6-1 ○	6-0 ○	6-0 ○	3:0 1
山間久美子(薬) 藤井恵美子(法)	1-6 ×		6-1 ○	6-2 ○	2:1 2
宮下こづえ(獣) 柏原麻美(病)	0-6 ×	1-6 ×		6-5 ○	1:2 3
岡征子(創) 平館真希子(図)	1-6 ×	2-6 ×	5-6 ×		0:3 4

優勝 小野田・三浦

準優勝 山間・藤井



女子A級 優勝



女子A級 準優勝

◆女子C級 8月4日(土) 会場：低温科学研究所コート

	渡部 細越	大坪 喜多	小笠原 高木	秋林 中山	勝：負 順位
渡部瑞穂(獣) 細越もとこ(獣)		3-6 ×	4-6 ×	3-6 ×	0:3 4
大坪智子(獣) 喜多知嘉子(獣)	6-3 ○		6-3 ○	2-6 ×	2:1 2
小笠原麻美(事) 高木敦子(事)	6-4 ○	3-6 ×		1-6 ×	1:2 3
秋林知里(事) 中山琴絵(事)	6-3 ○	6-2 ○	6-1 ○		3:0 1

優勝 秋林・中山

準優勝 大坪・喜多



女子C級 優勝



女子C級 準優勝

■ 研修

研修名：平成24年度北海道地区国立大学法人等会計事務研修（初級）

開催期間：平成24年7月3日～平成24年7月5日

開催場所：百年記念会館大会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の会計事務に従事する主任以下の職員に、会計事務に係る職員としての心構えを自覚させるとともに、会計事務の遂行に資する幅広い知識を付与することを目的とする。



受講風景



講話（山口佳三理事・副学長）



講義「文部科学予算を巡る状況について」
（文部科学省大臣官房会計課第一予算班 平生明義第二係長）



講義とグループ討議
（プライスウォーターハウスクーパース株式会社）

（財務部主計課）

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成24年7月9日）

- 報告事項・株式会社電通北海道との連携に関わる基本協定について
- ・ 公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センターの部門の再編について
 - ・ 創成研究機構ナノテクノロジー連携研究推進室の設置について

教育研究評議会（平成24年7月18日）

- 議 題・経営協議会の学外委員について
- ・ 教員の懲戒について
- 報告事項・株式会社電通北海道との連携に関わる基本協定について
- ・ ResearcherIDの登録について
 - ・ 全学運用教員の措置について
 - ・ 公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センターの部門の再編について
 - ・ 創成研究機構ナノテクノロジー連携研究推進室の設置について
 - ・ AXAグループリサーチファンド（研究助成）の募集について
 - ・ 大学間交流協定の新規締結について
 - ・ ルサカオフィスの開所式について
 - ・ 平成23年度決算について

役員会（平成24年7月23日）

- 協議事項・全学運用教員の措置について
- 報告事項・全学運用教員の実施状況の報告について
- ・ 障害者の雇用状況等について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学における個人情報の開示等に関する規程の一部を改正する規程

(平成24年7月9日海大達第96号)

平成24年7月9日付けで、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律施行令が一部改正されることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター規程の一部を改正する規程

(平成24年8月1日海大達第97号)

平成24年8月1日付けで、研究遂行能力を一層高め、社会における諸課題に効果的に対処するため、本センターに置く部門を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学附属図書館利用規程の一部を改正する規程

(平成24年8月1日海大達第98号)

本学の役職員については、職員証をもって図書館利用証に代えるものとするに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学附属図書館北図書館規程の一部を改正する規程

(平成24年8月1日海大達第99号)

本学附属図書館北図書館委員会の補欠の委員の任期を定めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

■ 表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
24.7.3	サッポロ・デンタル・カレッジ (バングラデシュ) M. A. Hannan 校長	両大学の交流に関する懇談
24.7.5	駐日大韓民国大使館 申 珪秀 特命全權大使	両国の交流に関する懇談
24.7.10	新郷医学大学 (中国) 郭 志坤 副学長	両大学の今後の交流に関する懇談
24.7.11	中国北京市 苟 仲文 副市长	共同研究の可能性に関する懇談



サッポロ・デンタル・カレッジ M. A. Hannan 校長
(右から3人目)



駐日大韓民国大使館 申 珪秀 特命全權大使 (中央)



新郷医学大学 郭 志坤 副学長 (手前右)



中国北京市 苟 仲文 副市长 (中央)

(国際本部国際連携課)

■人事

平成24年7月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【准教授】 大学院文学研究科准教授	菅 野 優 香	採用

平成24年7月19日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【経営協議会委員】 (期間：平成26年7月18日まで) (期間：平成26年7月18日まで)	増 山 壽 一 山 崎 隆 志	北海道経済産業局長 北海道新聞社論説主幹

平成24年7月27日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員】 北海道大学病院診療支援部臨床検査技師	鶴 田 絢 香	採用

平成24年7月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員】 (辞職)	浅 沼 恵 子 浅 野 弘 恵 下郡山 り か 猪 原 康 子	北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院診療支援部作業療法士

平成24年8月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【部局長・施設長等】 創成研究機構副機構長 (期間：平成25年3月31日まで)	行 松 泰 弘	大学院工学研究院教授
【教授】 大学院医学研究科教授 大学院工学研究院教授 情報基盤センター教授	豊 嶋 崇 徳 行 松 泰 弘 棟 朝 雅 晴	九州大学病院准教授 文部科学省科学技術・学術政策局計画官 情報基盤センター准教授
【准教授】 大学院農学研究院准教授 (転出) 富山大学大学院薬学研究部(薬学)分子合成化学研究室准教授	渡 部 敏 裕 南 部 寿 則	大学院農学研究院助教 大学院薬学研究院助教
【講師】 大学院農学研究院講師 大学院農学研究院講師 遺伝子病制御研究所講師	中 原 健 二 山 田 浩 之 森 本 純 子	大学院農学研究院助教 大学院農学研究院助教 遺伝子病制御研究所助教
【技術職員】 北海道大学病院診療支援部作業療法士	澤 村 大 輔	採用

新任教授紹介

平成24年8月1日付



医学研究科教授に

てしま たかのり
豊嶋 崇徳 氏

 医学専攻内科学講座／
 血液内科学分野

生年月日

昭和36年10月19日

最終学歴

 九州大学医学部医学科卒業（昭和61年3月）
 博士（医学）（九州大学）

専門分野

内科学，血液学，輸血学，免疫学



工学研究院教授に

ゆきまつ やすひろ
行松 泰弘 氏

 工学系教育研究センター国際
 性啓発教育プログラム開発部

生年月日

昭和41年2月17日

最終学歴

立命館大学法学部卒業（昭和63年3月）

専門分野

国際性啓発教育，科学技術政策



情報基盤センター教授に

むねとも まさはる
棟朝 雅晴 氏

デジタルコンテンツ研究部門

生年月日

昭和43年9月10日

最終学歴

 北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成8年3月）
 博士（工学）（北海道大学）

専門分野

ソフトウェアコンピューティング，クラウドコンピューティング

訃報

名誉教授 いしだ まさみ 石田 正己 氏
(享年97歳)



名誉教授 石田正己氏は、平成24年5月12日、享年97歳でご逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、大正4年4月9日、北海道函館市に生まれ、昭和14年3月北海道帝国大学工学部電気科を卒業、直ちに東京芝浦電気株式会社中央研究所に入社、その後同23年2月函館水産専門学校教授に就任、同25年4月北海道大学水産学部助教授、同37年7月同教授となり、同54年4月北海道大学を停年により退官し、同年同月北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

北海道大学水産学部在任中は、主と

して魚鮮探知機の漁業分野への応用に関する水中音響工学的研究を行い、昭和37年3月「水中超音波による海中の不連続境界の探知に関する研究」の論文によって、北海道大学から工学博士の学位を授与されました。

奉職以来、赤外線加熱によるスルメイカの人工乾燥技術の開発をはじめ、水中テレビジョンによるサケ・マス流網の脱落機構の解明、遠隔水温自動測定装置及び漂流式追跡ブイ装置などの考案により、海洋情報の測得技術の開発に関し先駆的役割を果たされました。

大学・学部の管理運営面においては、昭和41年の学部改組拡充にともない、旧遠洋漁業学科と漁業学科が合併し漁業学科に改組された際には指導的役割を果たし、同学科の教育・研究基盤の確立に尽力するとともに、その後の同学科の拡充発展に尽力されました。昭和45年12月から北海道大学改革検討委員会委員として、同48年6月から同52年3月まで北海道大学評議員として、そして同52年4月から停年退官までの2年間は、北海道大学水産学部

長事務取扱、同大学評議員、同大学大学院水産学研究科長、同大学大学院委員会委員として、北海道大学の管理運営の枢機に参画し大学の充実発展に尽力するとともに、学部の教育・研究体制と充実、諸施設の整備等に尽力されました。

学会活動においては、昭和53年4月から同55年3月まで日本水産学会北海道支部長として、また、同52年11月から同53年10月まで北海道科学技術審議会委員として、学会及び地域の科学技術の発展に尽力されました。

以上のように、同氏は研究者として優れた業績を挙げられ、学術の振興に貢献されたほか、教育者としても優秀な人材を数多く世に送り出され、我が国の高等教育と学術の発展に貢献されました。これらの功績により、昭和63年春の叙勲において勲三等旭日中綬章を授与されました。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)



北海道大学 ホームカミングデー 2012

— おかえりなさい「エルムの森」のキャンパスへ! —



同窓生の皆さん、懐かしいキャンパスで、旧友や恩師と青春の思い出を振り返ってみませんか？
北大の「今」を体感できる、講演会や施設見学など様々なイベントをご用意してお待ちしております。

平成24年10月6日(土)

会場 北海道大学札幌キャンパス

クラーク会館、各学部施設 等

主催 北海道大学 共催 北海道大学連合同窓会

詳細はウェブサイトにて

北海道大学ホームカミングデー

検索

お問い合わせ
北海道大学総務企画部広報課
〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

011-706-2012 / 2153
home@general.hokudai.ac.jp

編集メモ

●10月6日(土)、札幌キャンパスで第1回「ホームカミングデー」を開催します。この催しは、北海道大学を卒業された同窓生の方々が母校に集い、学部・学科や地域、そして年代の枠を超えて親睦を深めることで、同窓生相互の発展と連帯強化、大学と同窓生の関係構築につなげようというものです。

2010年ノーベル化学賞を受賞された鈴木 章名誉教授による記念講演会をはじめ、北大の“今”を体感していただける多くの行事を予定していますので、ぜひご参加ください！また、教職員の皆様のご参加も歓迎しています。

(<http://www.hokudai.ac.jp/home2012/>)

●農学部の建物は上から見ると「北」の字の形をしているという話を耳にした方も多いのではないのでしょうか。先日にも本件に関するお問い合わせがありました。工学研究院の池上重康先生にお聞きすると、当初の設計図面では「北」の形状だったが、農学部建物は一度も「北」の字を表すことなく、1960(昭和35)年に完成したとのことでした。

広報誌「リテラポプリ」30号(2007年3月発行)ではその経緯を詳しく紹介していますので、興味のある方は、ぜひご一読ください。

(<http://www01.hokudai.ac.jp/bureau/populi/edition30/index.html>)



2011. 8. 9 大雪山赤岳

北の息吹 64 ジムカデ (*Harimanella stelleriana*)

高山に生えるツツジ科の小低木には、鐘状の可愛い花を下向きに着けるものが多いが、本種の花は純白の花弁の形と赤い萼のバランスが絶妙で、一番の器量よしといえよう。それにしてはジムカデという和名は全くいただけない。直線状の枝に密生する葉がムカデを連想させるというのだろうが、ふさわしくない名前をつけたものだ。この種は本州中部から北米の北西部までの寒冷地に

広く分布し、英語ではアラスカ・ベル・ヒースというまともな名前と呼ばれる。大雪山には結構大きな群落があると思っていたが、最近パンフ国立公園で見た近縁の別種は、見渡す限りに単一コロニーを形成しており、さすがに大陸は違うと感心させられた。

前理事・副学長 岡田 尚武

北大時報 ⑧ No.701 平成24年8月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL: (011) 706-2610 / FAX: (011) 706-4870 / E-mail: kouhou@jimuhokudai.ac.jp
北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/bureau/populi/